

第 8 期つくば市高齢者福祉計画策定のための アンケート調査【概要版】

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は「つくば市高齢者福祉計画（第 8 期）」策定のため、市内に居住する高齢者及びケアマネジャーの現状を把握し、計画の基礎資料とするために実施したものです。

(2) 調査対象および調査方法

調査実施日：令和 2 年 1 月 15 日～令和 2 年 2 月 17 日

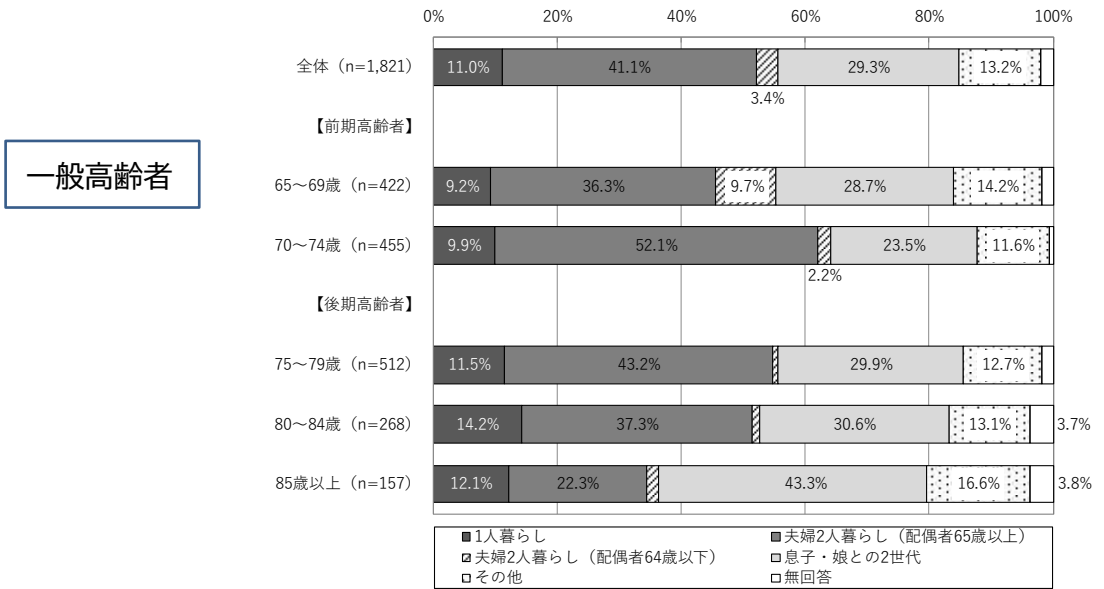
対象者	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
一般高齢者	3,000	1,821	1,821	60.7%
要支援・要介護認定者	3,000	1,502	1,502	50.1%
若年者	2,000	806	805	40.3%
ケアマネジャー	250	174	171	68.4%

2. 一般高齢者調査、要支援・要介護者調査、若年者調査結果抜粋

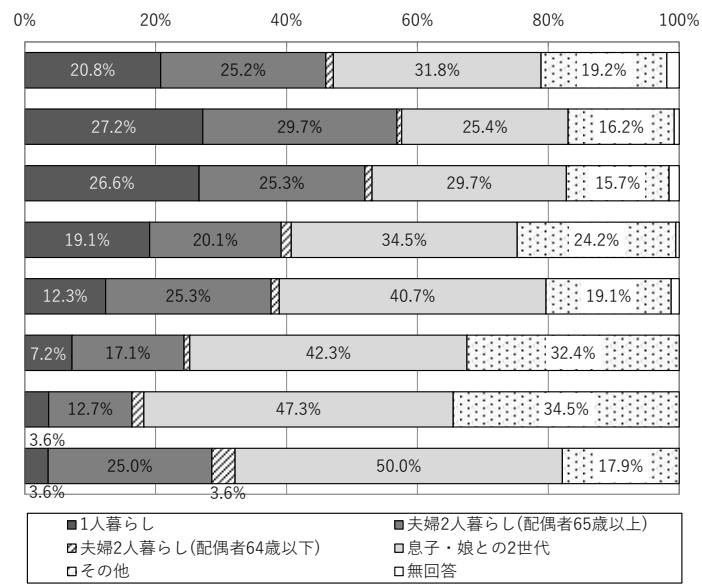
(1) あなたの御家族や生活状況について

家族構成について、一般高齢者では「夫婦2人暮らし」が4割と最も多く、要支援・要介護者、若年者では「息子・娘との2世代」が約3～4割と最も多くなっています。

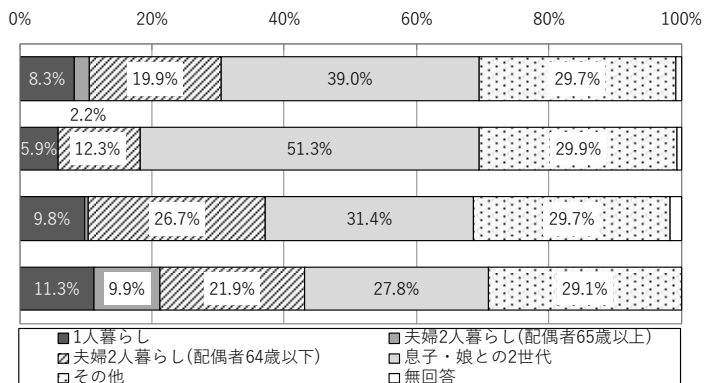
【家族構成】



要支援・要介護者

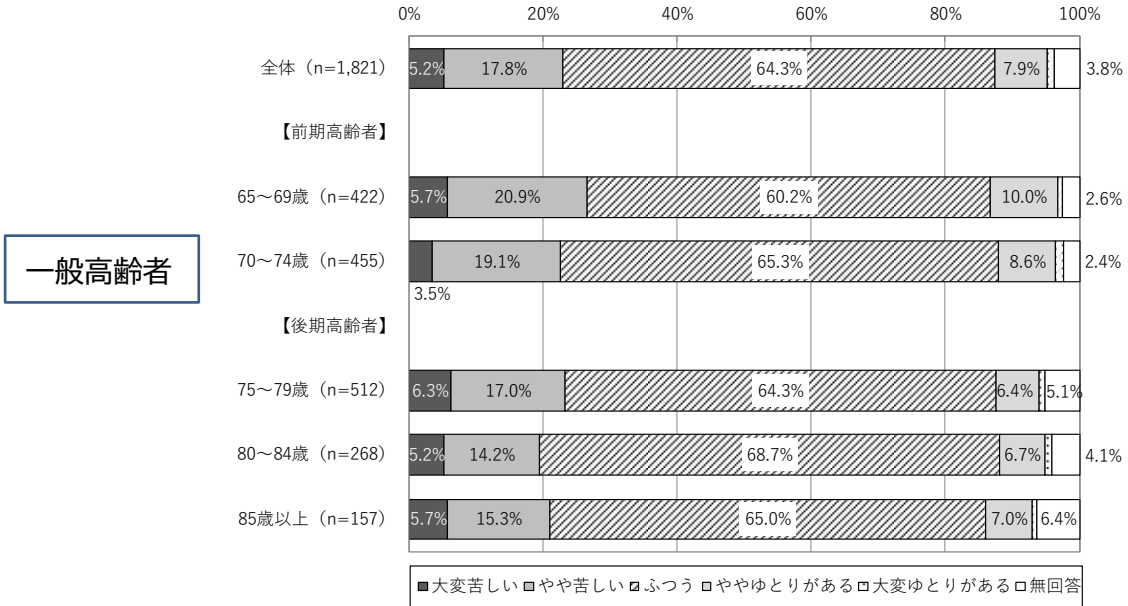


若年者



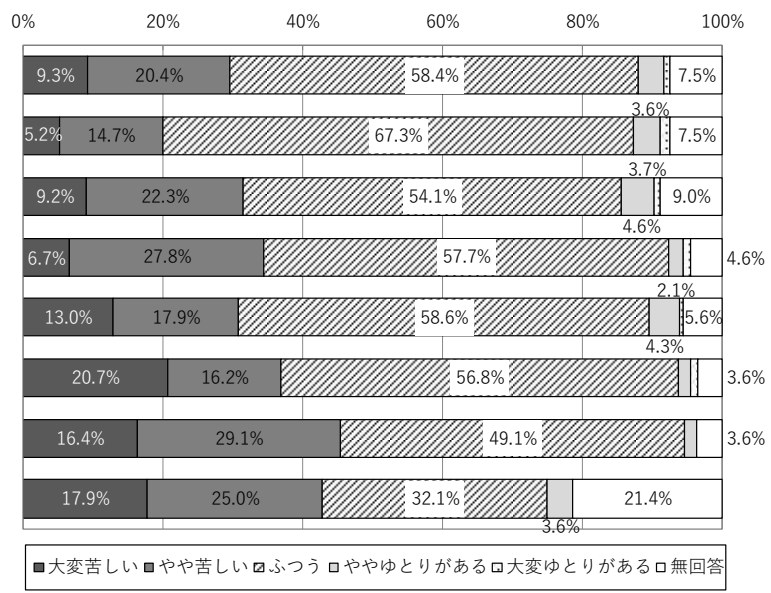
現在の暮らしの状況では、「ふつう」がどの調査でも最も多くなっていますが、要支援・要介護者において「大変苦しい」、「やや苦しい」を合わせると約3割となり、他の調査と比較するとやや多くなっています。

【現在の暮らしの状況】

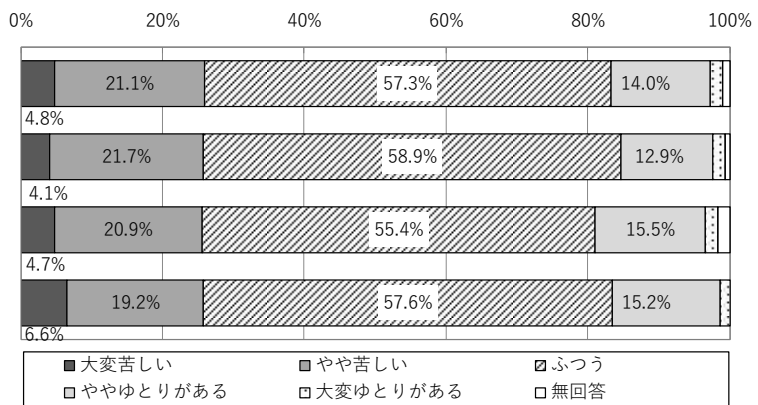


一般高齢者

要支援・要介護者



若年者

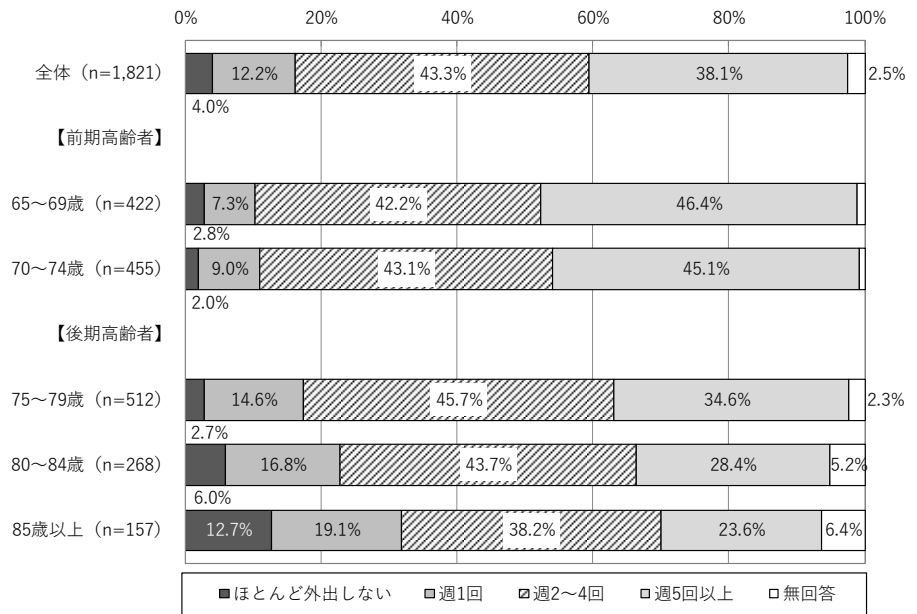


(2) からだを動かすことについて

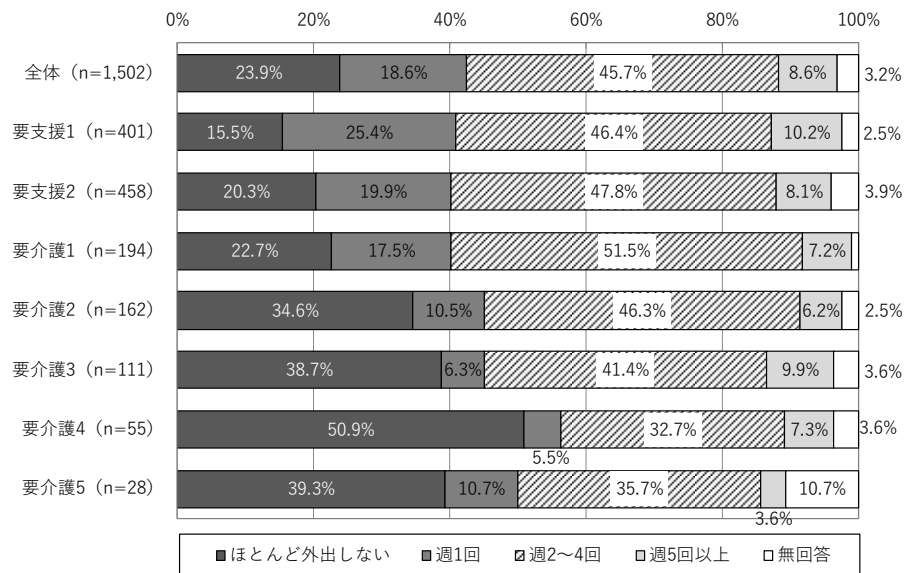
週に1回以上は外出しているかでは、一般高齢者、要支援・要介護者ともに「週2~4回」が約4割と最も多く、要支援・要介護者では「ほとんど外出しない」が約2割となっています。

一般高齢者

【外出の有無】

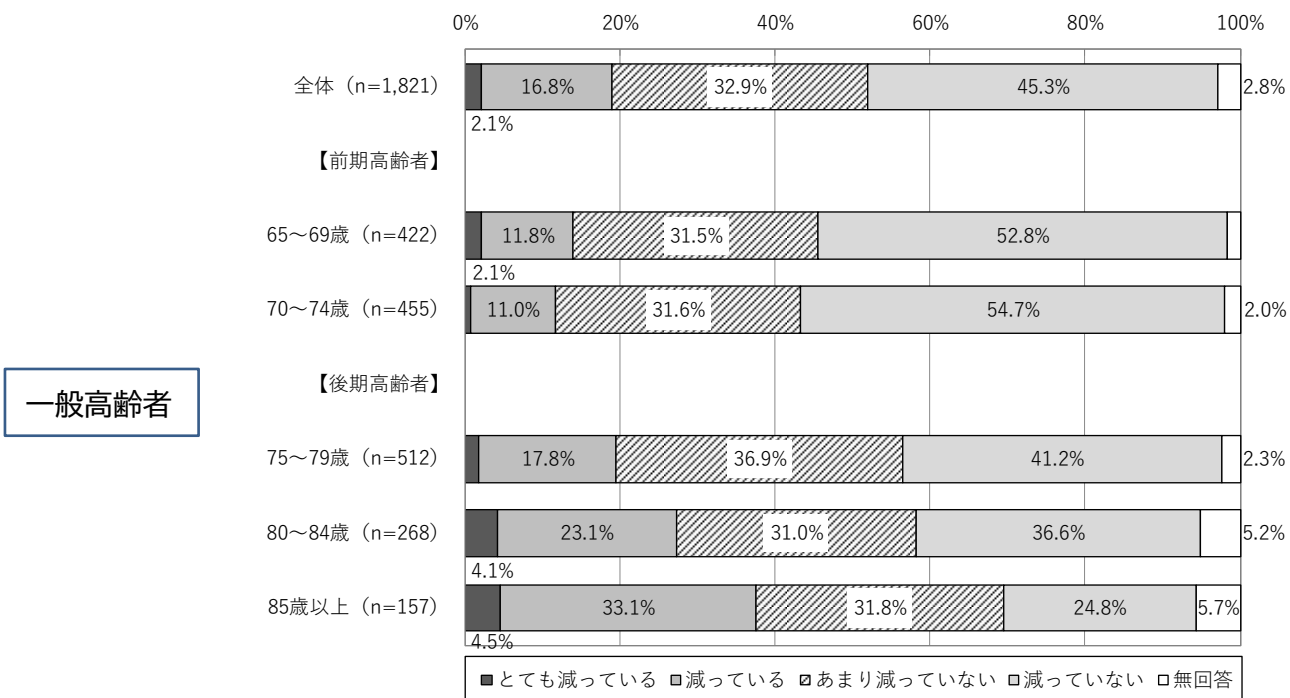


要支援・要介護者

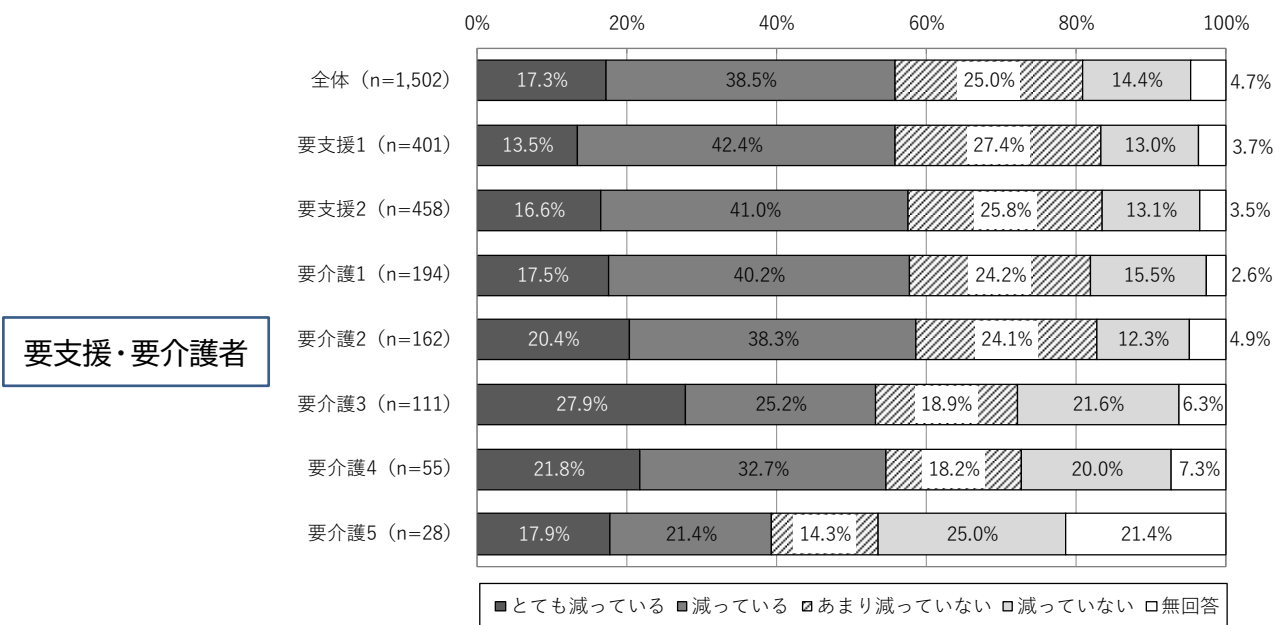


昨年と比べて外出の回数が減っているかでは、一般高齢者では「減っていない」が4割と最も多く、要支援・要介護者では「減っている」が約4割となっています。

【外出の回数】



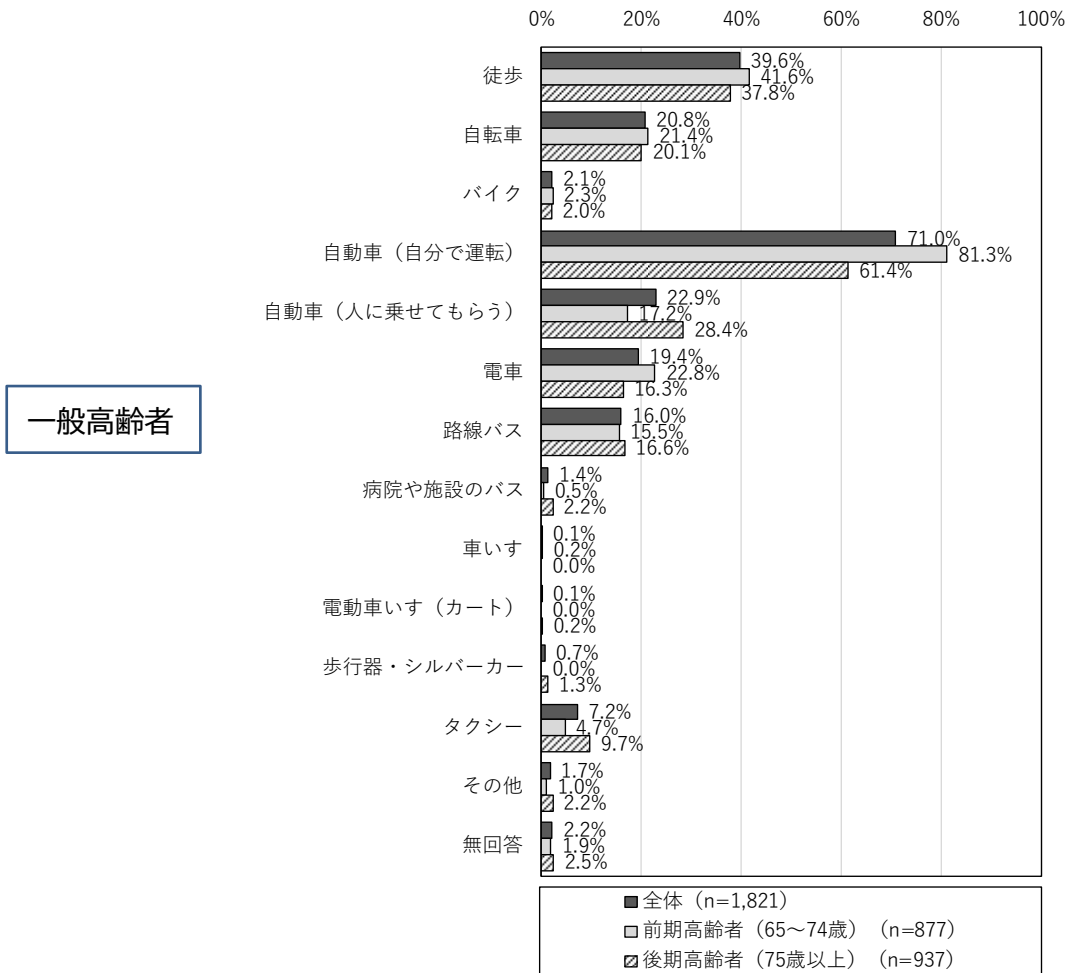
一般高齢者



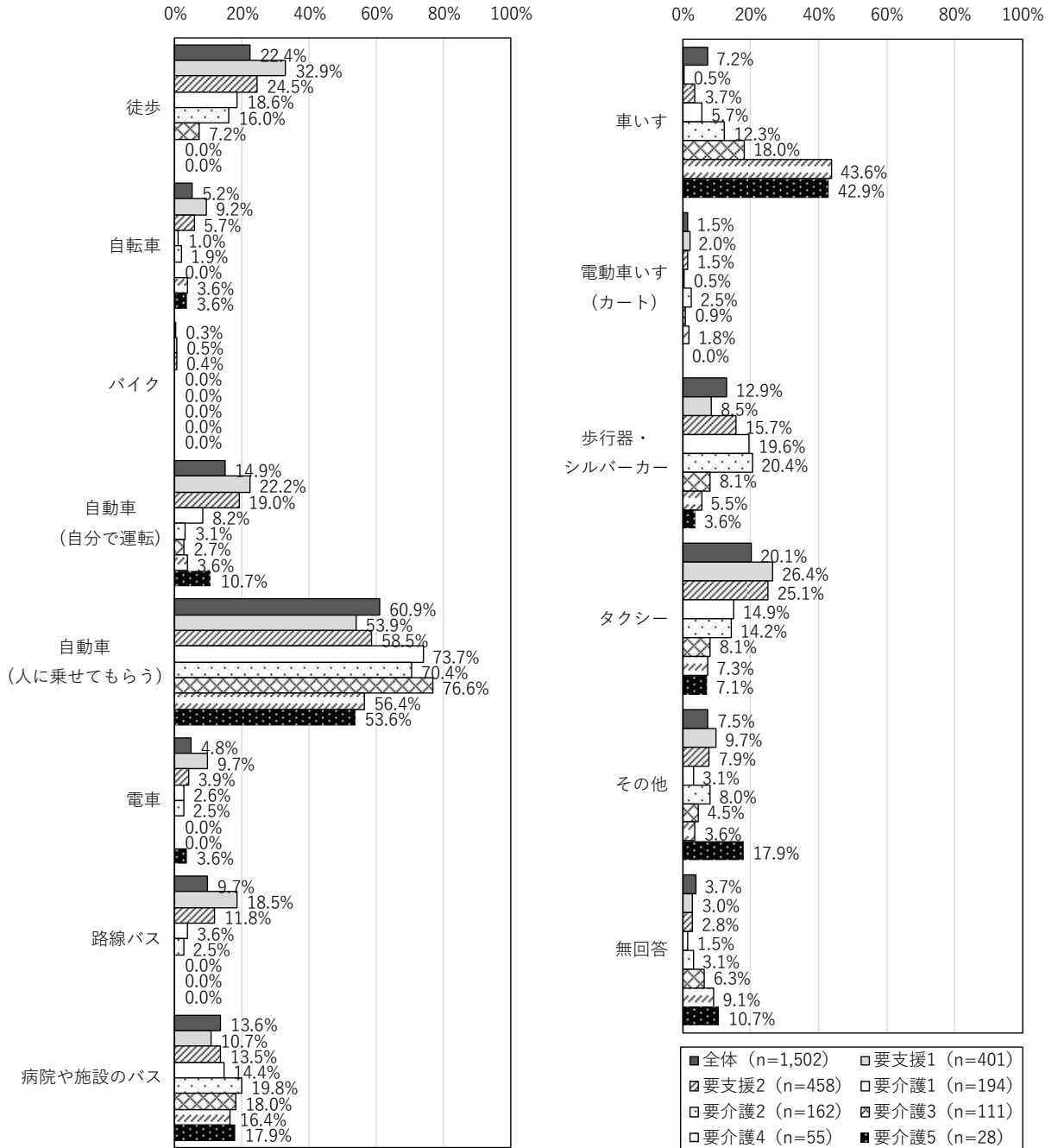
要支援・要介護者

外出する際の移動手段をみると、一般高齢者では「自動車（自分で運転）」が7割と最も多く、要介護者では、「自動車（人に乗せてもらう）」が6割となっています。

【外出の際の移動手段】



要支援・要介護者

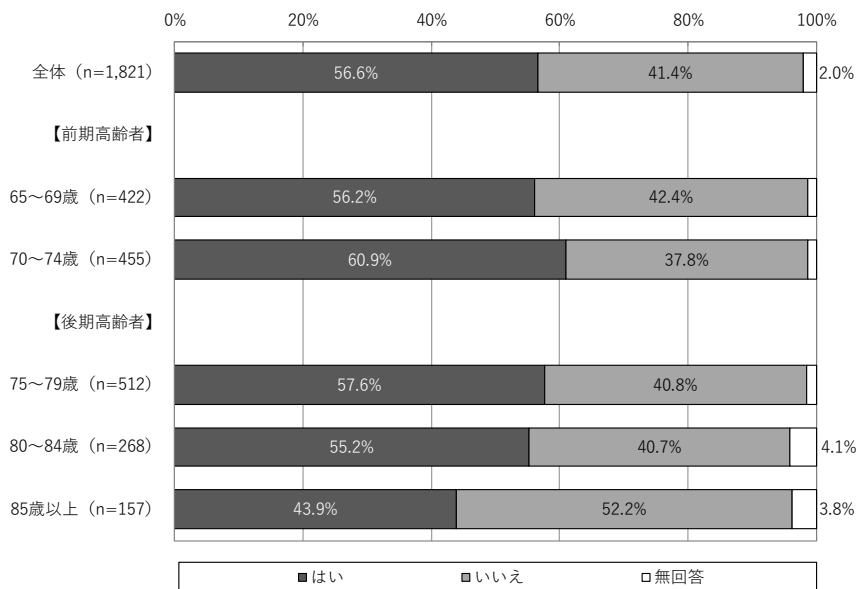


(3) 食べることについて

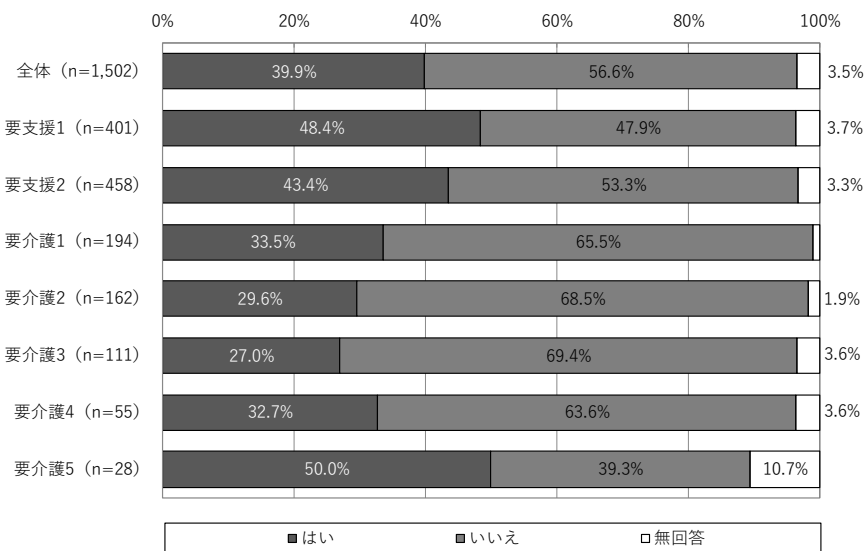
定期的に歯科受診（健診を含む）をしているかでは、一般高齢者と若年者は受診しているが約5割となっていますが、要支援・要介護者では、約4割となっています。

【定期的な歯科健診の受診】

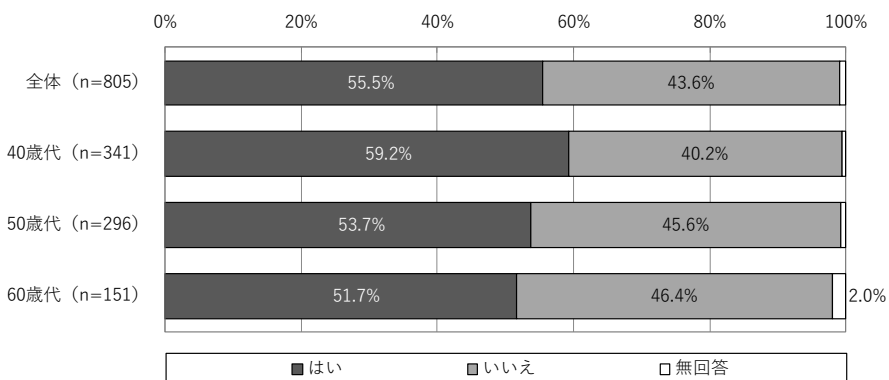
一般高齢者



要支援・要介護者



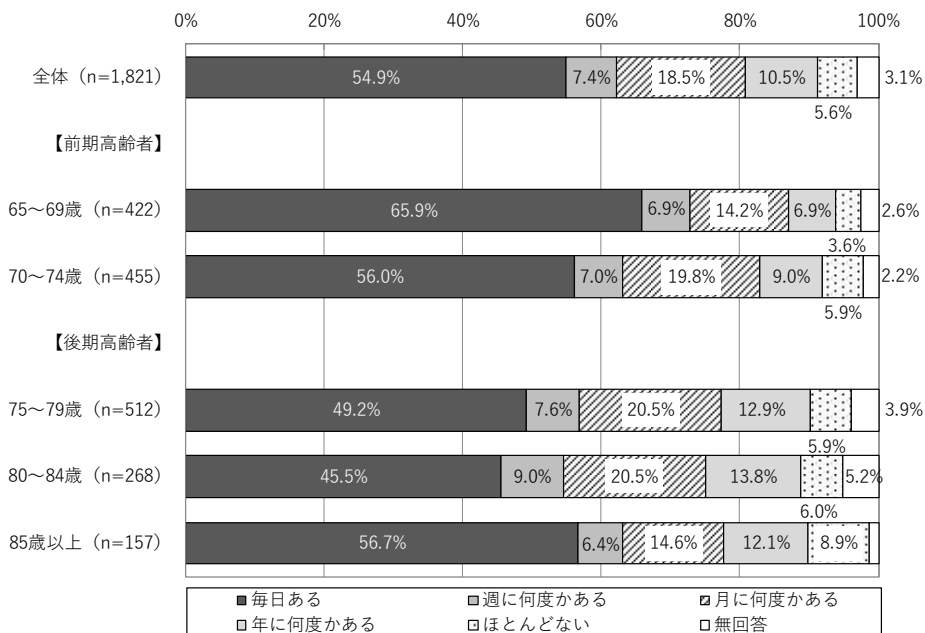
若年者



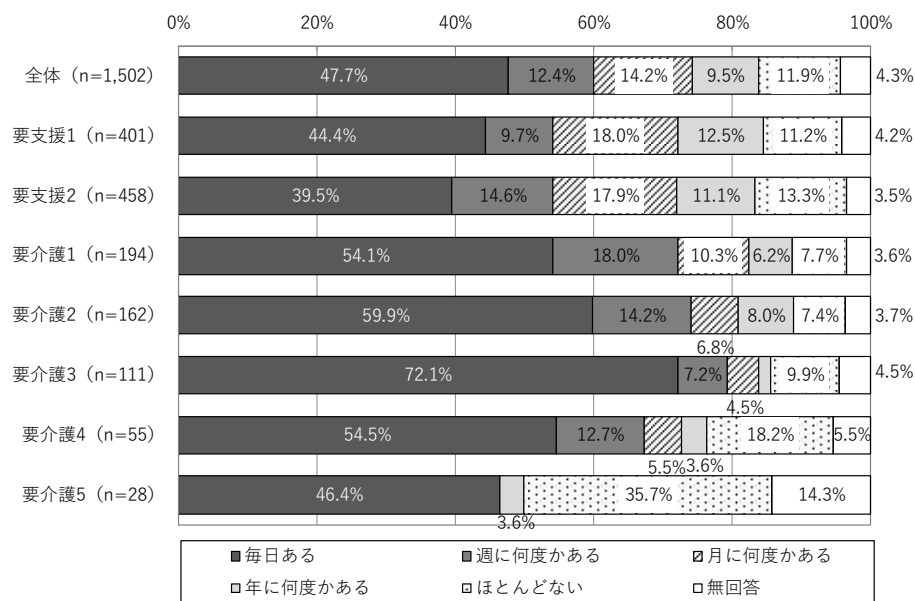
共食の機会について、一般高齢者と要支援・要介護者を比較すると、「毎日ある」の回答は一般高齢者のほうが高くなっています。

【共食の機会】

一般高齢者



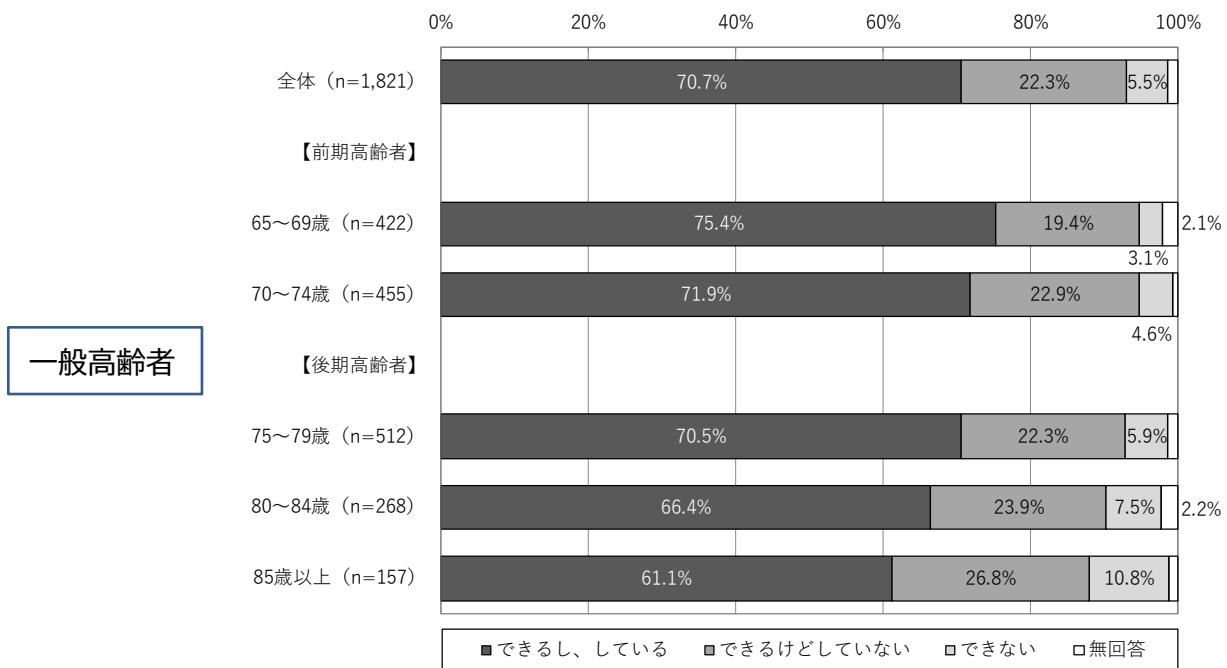
要支援・要介護者



(4) 毎日の生活について

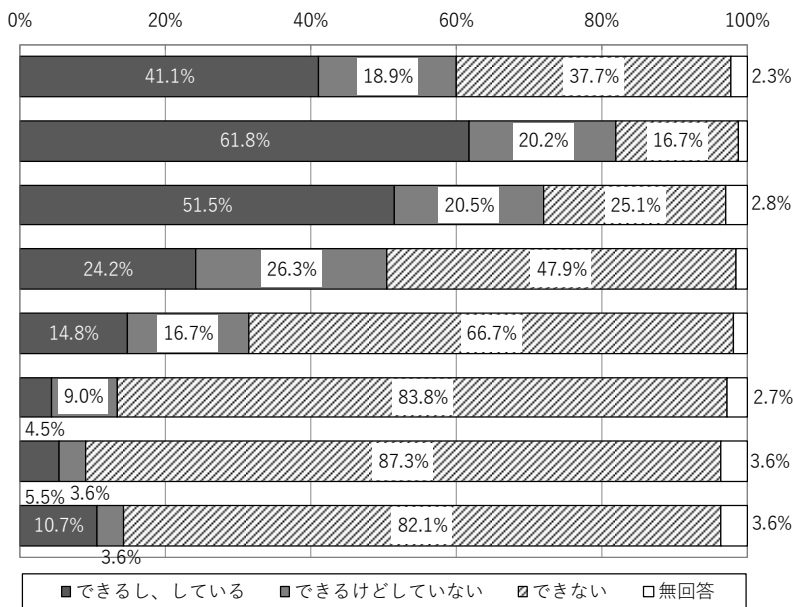
自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できるし、している」の回答は、一般高齢者が多く7割となっており、要支援・要介護者と比較すると約30ポイント高くなっています。

【買い物等ができていますか】



一般高齢者

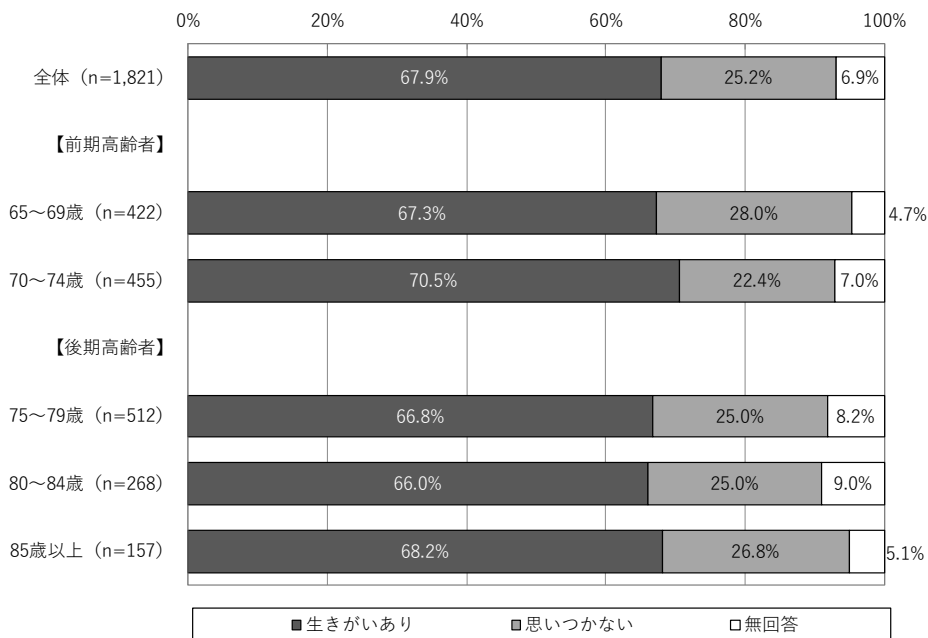
要支援・要介護者



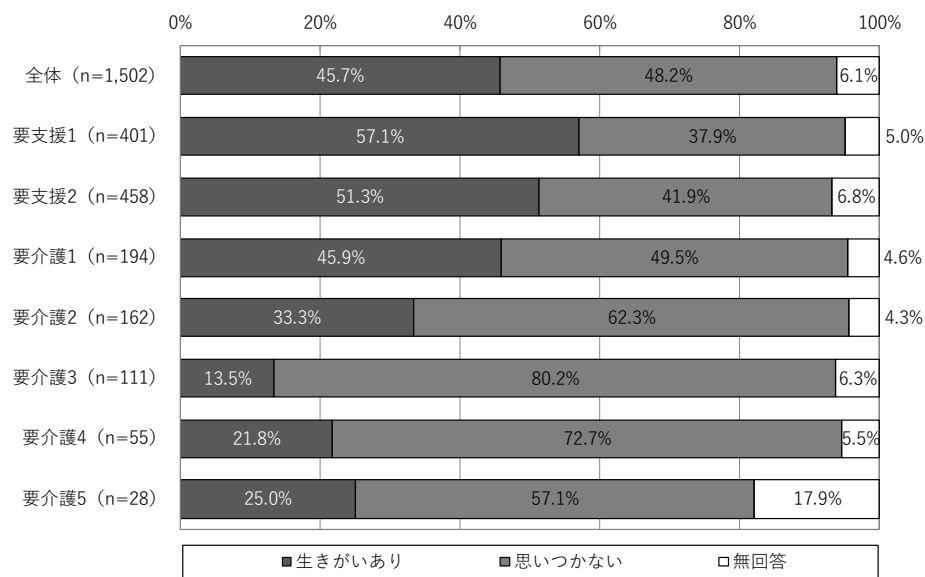
生きがいの有無について、「生きがいあり」は一般高齢者では約7割、要支援・要介護者では約4割となっています。

【生きがいの有無】

一般高齢者



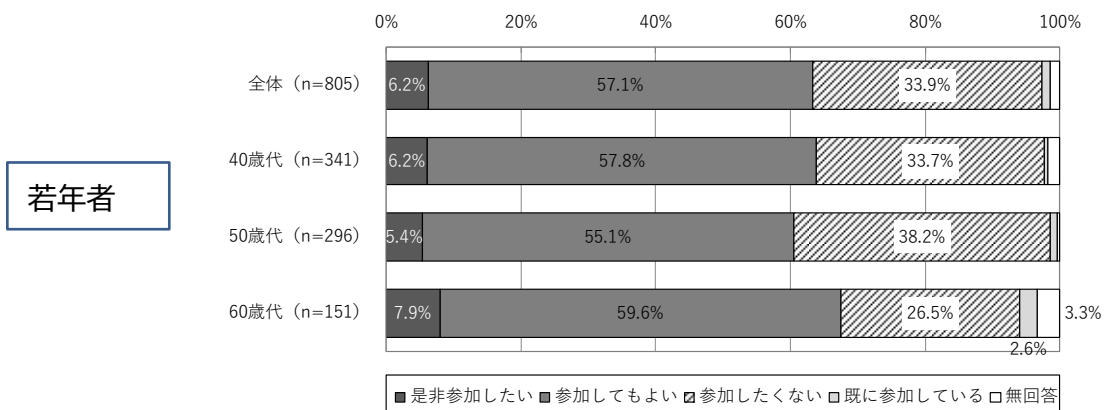
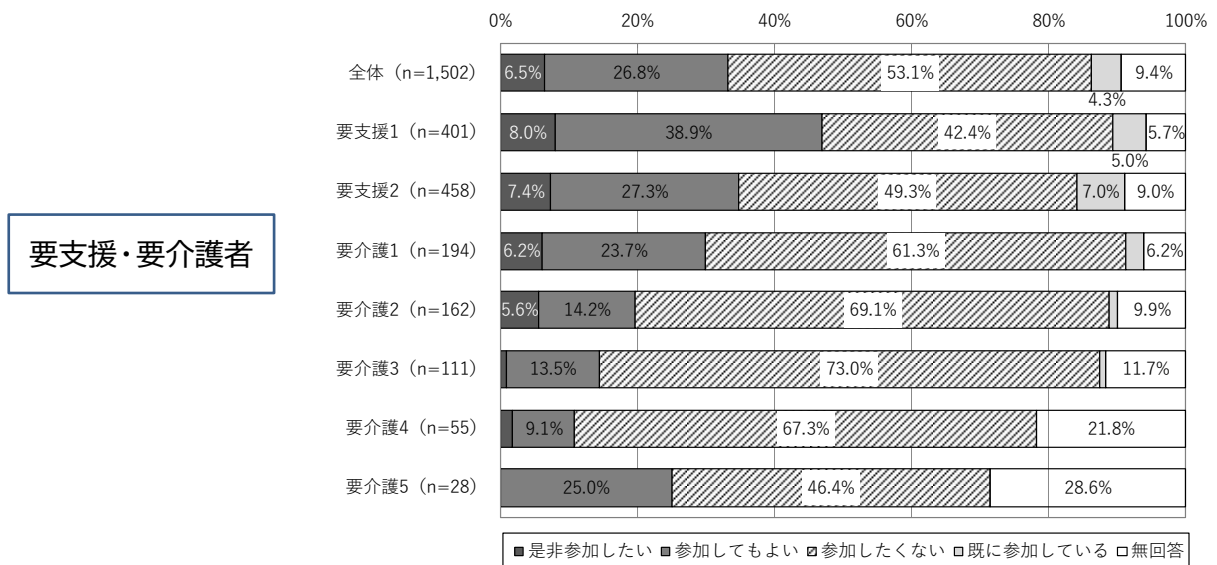
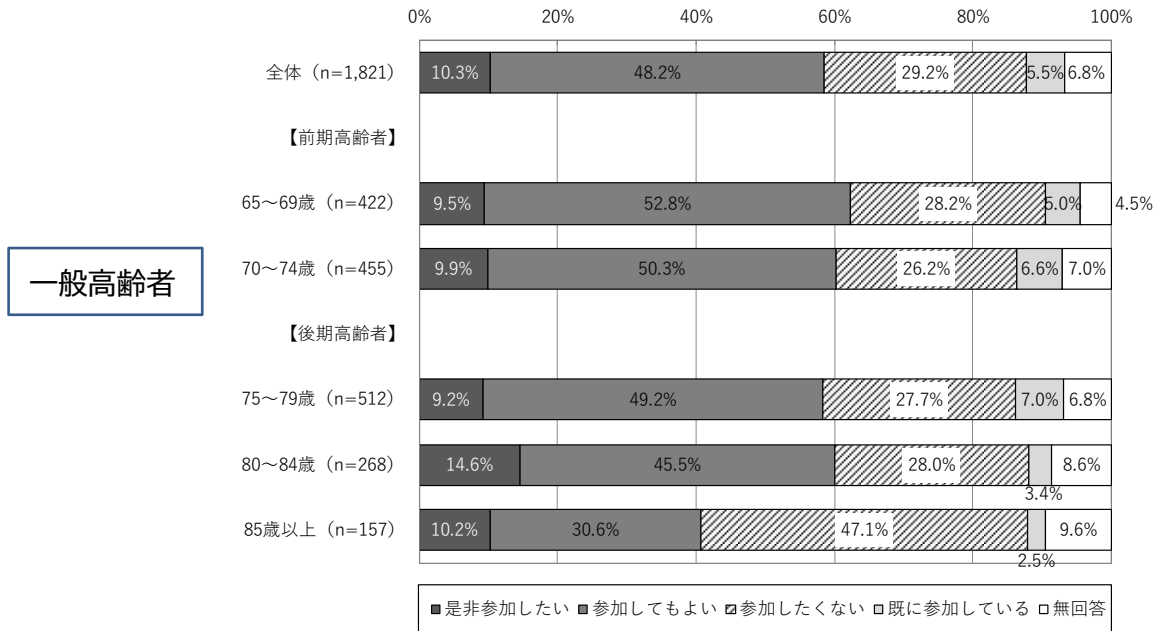
要支援・要介護者



(5) 地域での活動について

健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加について、一般高齢者、若年者では、「参加してもよい」の回答が多く、要支援・要介護者では「参加したくない」が約5割となっています。

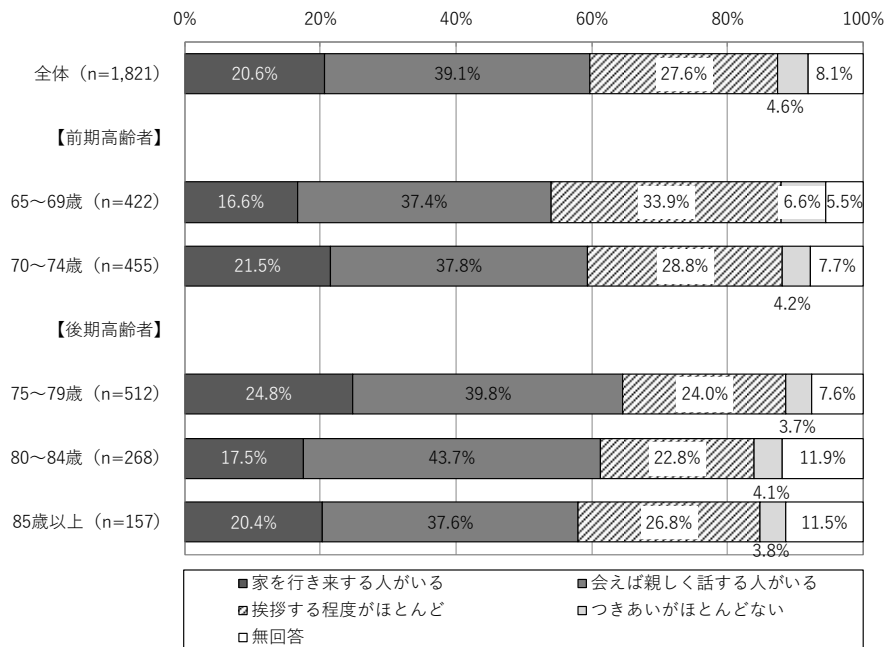
【趣味等のグループ活動への参加について】



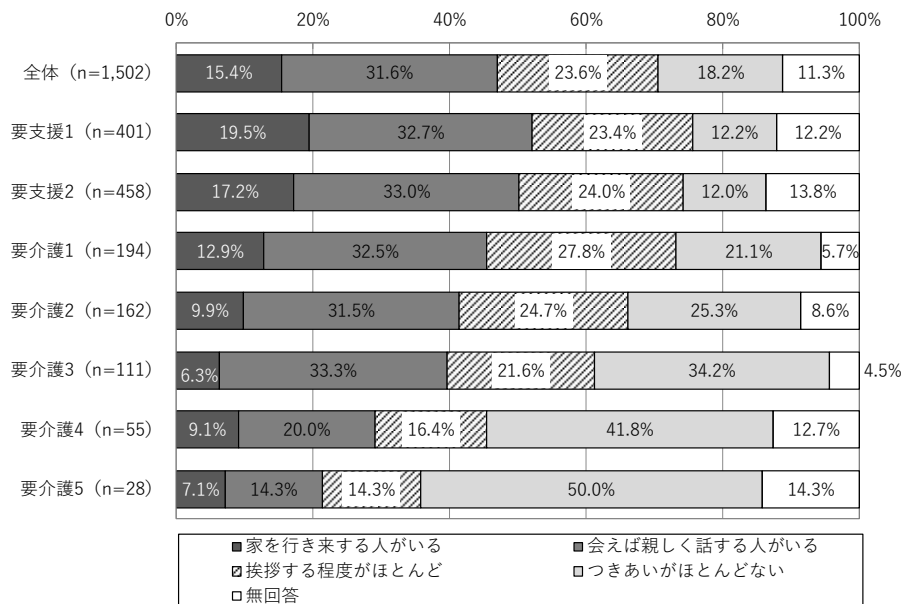
近所付き合いの有無は、一般高齢者と要支援・要介護者では、「会えば親しく話す人がいる」が最も多く、若年者では「あいさつする程度がほとんど」が約5割と最も多くなっています。

【近所付き合いの有無】

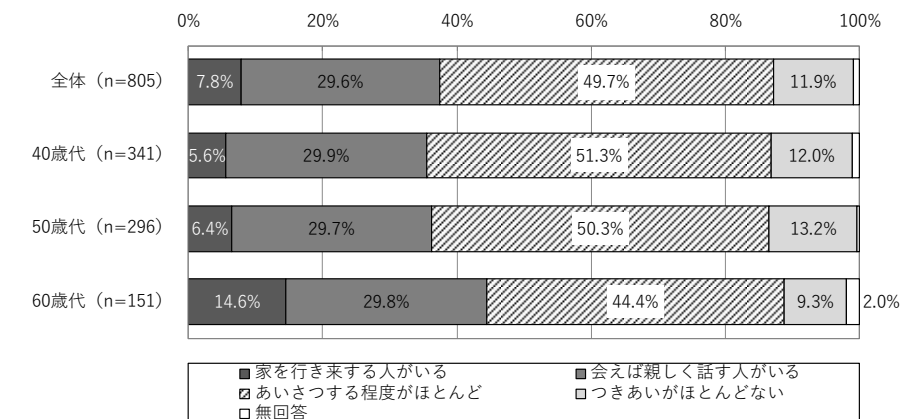
一般高齢者



要支援・要介護者



若年者

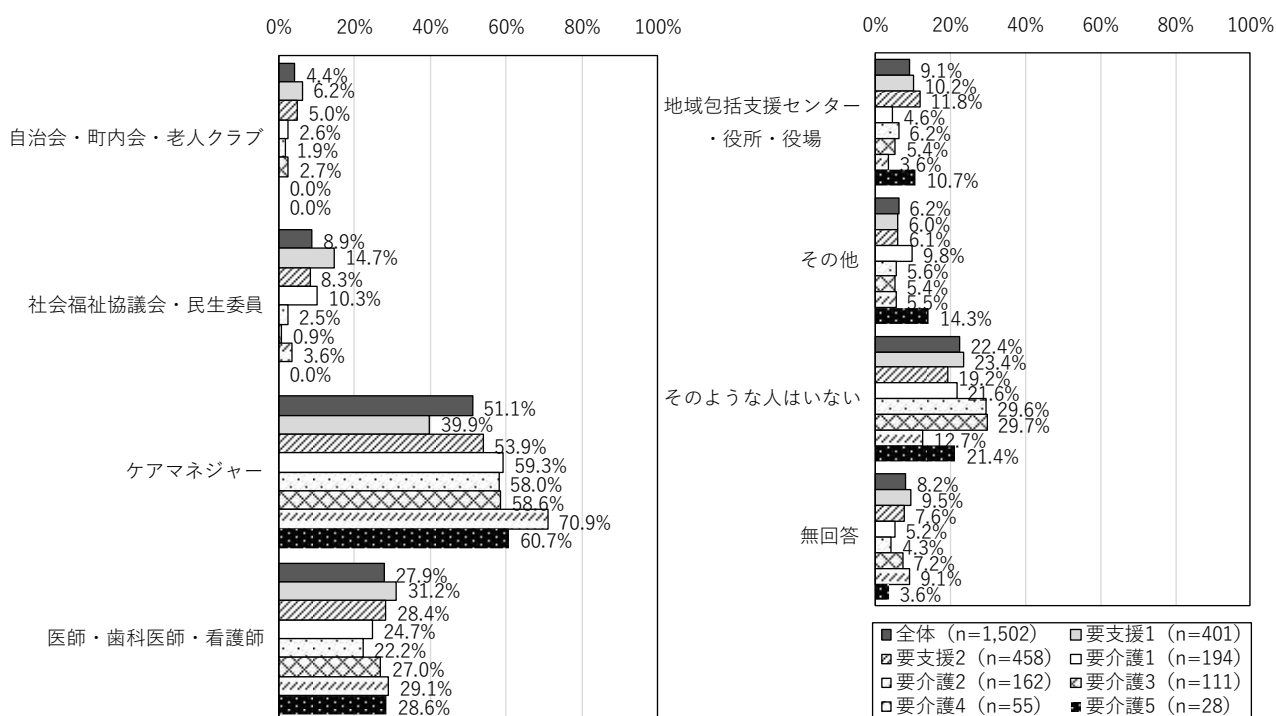
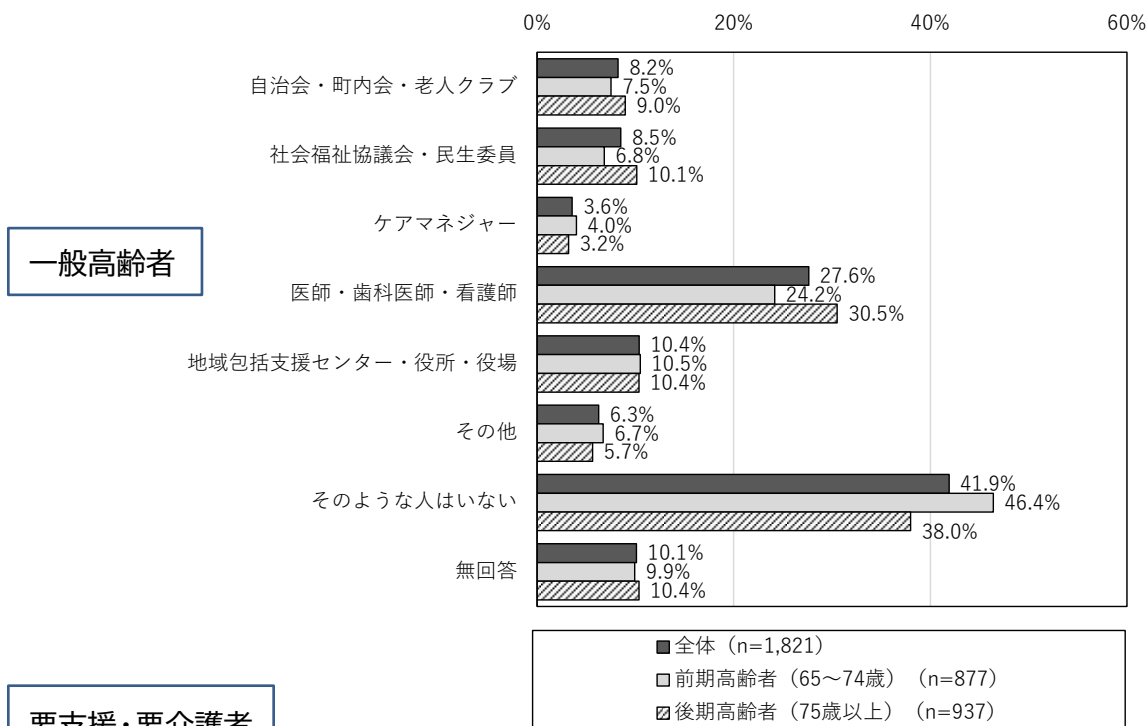


(6) たすけあいについて

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、一般高齢者では、「医師・歯科医師・看護師」が約3割、要支援・要介護者ではケアマネジャーが約5割となっています。

また、一般高齢者では「そのような人はいない」が約4割となっています。

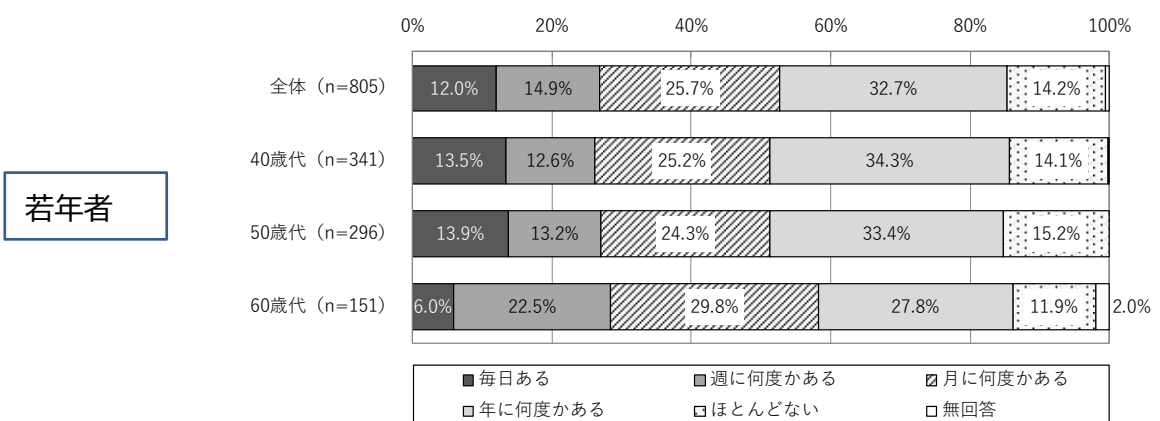
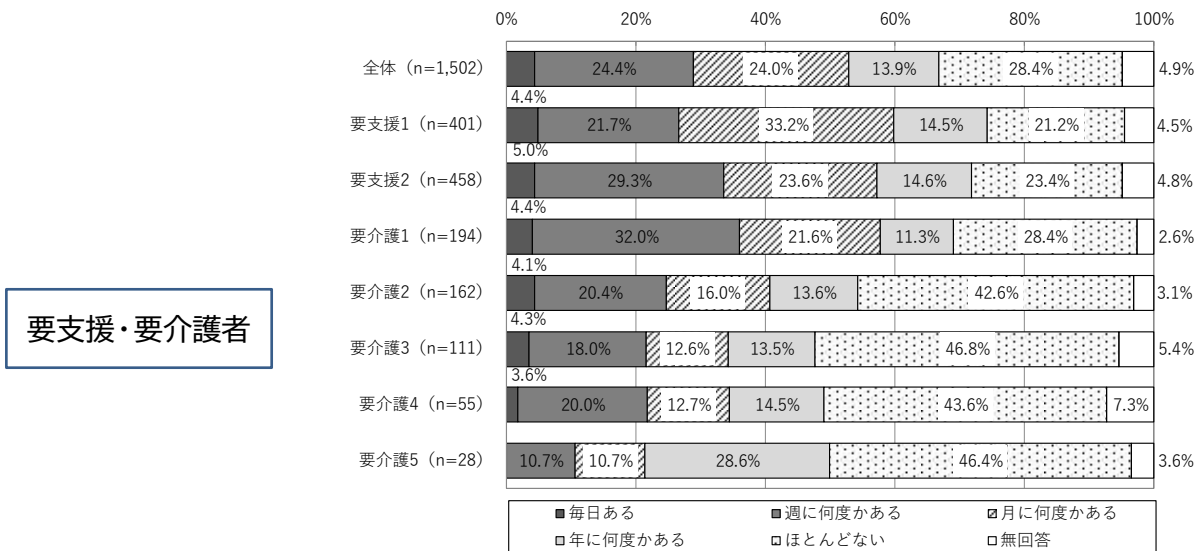
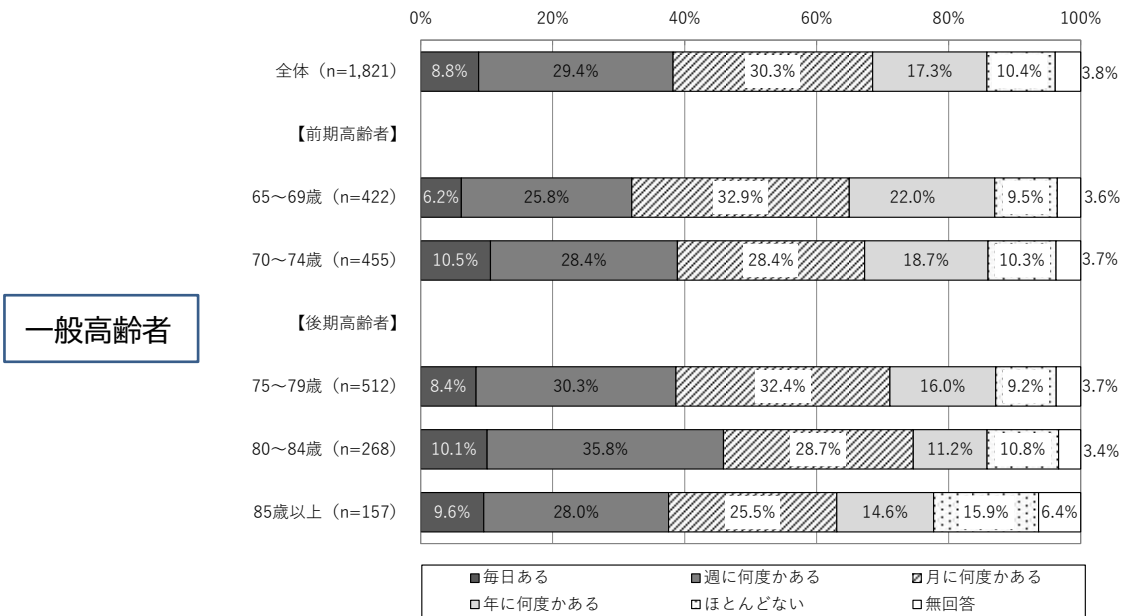
【家族や友人以外の相談相手】



友人・知人と会う頻度について、一般高齢者では「月に何度かある」が約3割、若年者では「年に何度かある」が約3割となっています。

要支援・要介護者では「ほとんどない」が約3割と最も多くなっています。

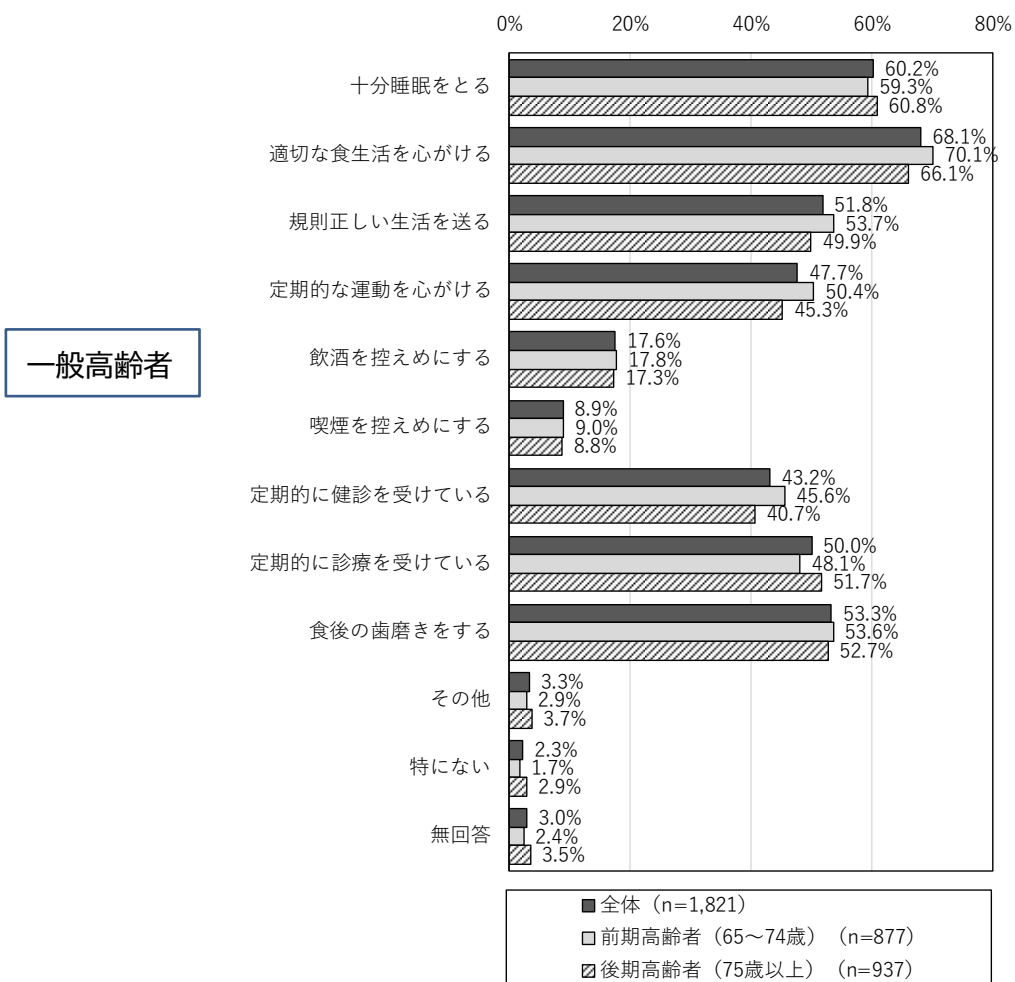
【友人・知人と会う頻度】



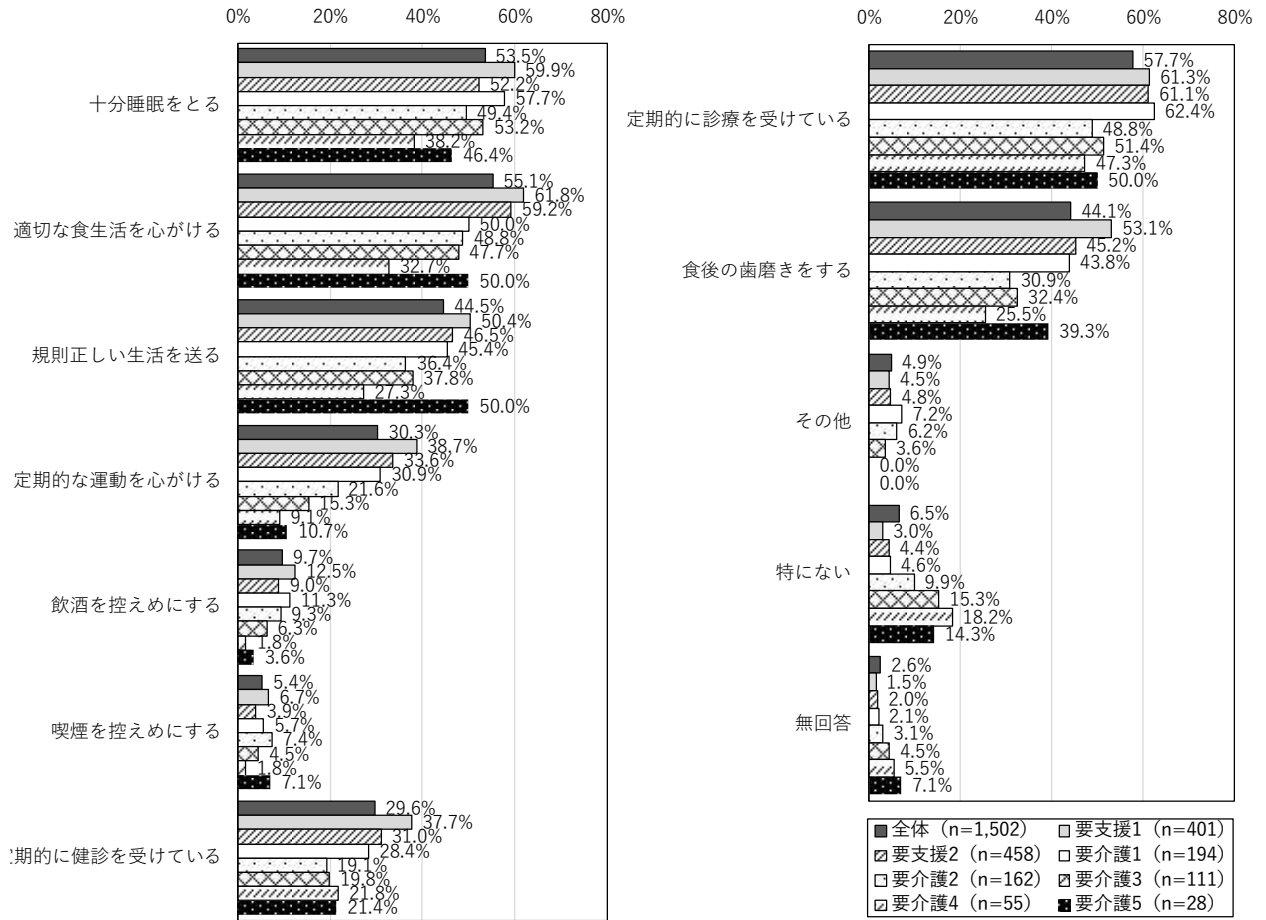
(7) 健康について

健康保持や疾病予防のための取り組みは、一般高齢者及び若年者では、「適切な食生活を心がける」が最も多く、要支援・要介護者では「定期的に診療を受けている」が約6割と最も多くなっています。

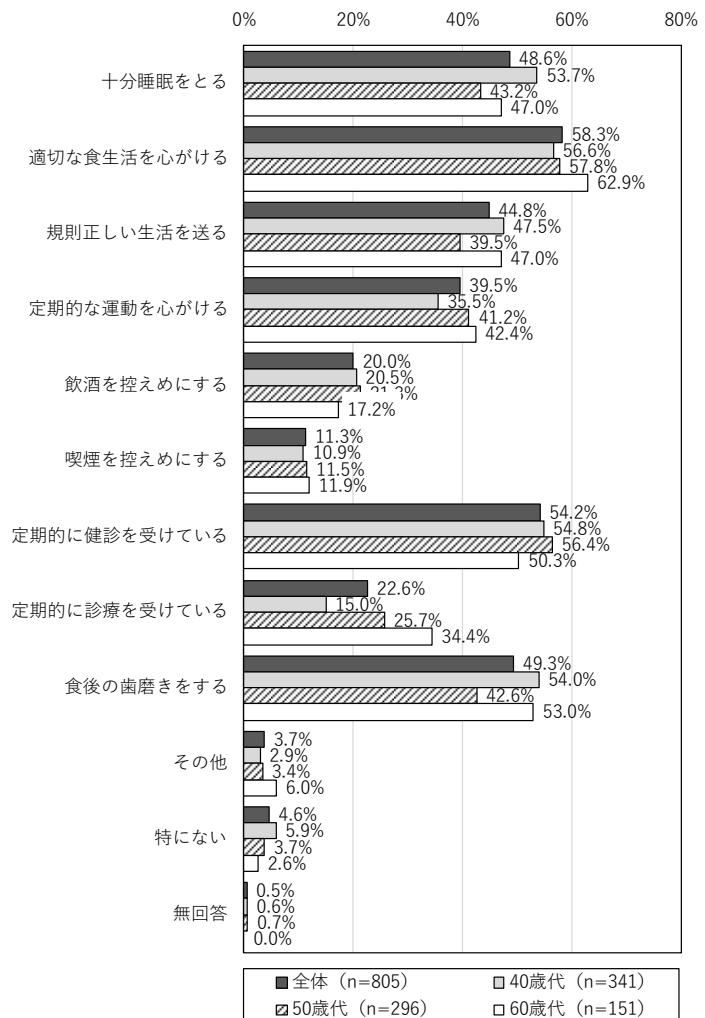
【健康保持や疾病予防のための取り組み】



要支援・要介護者



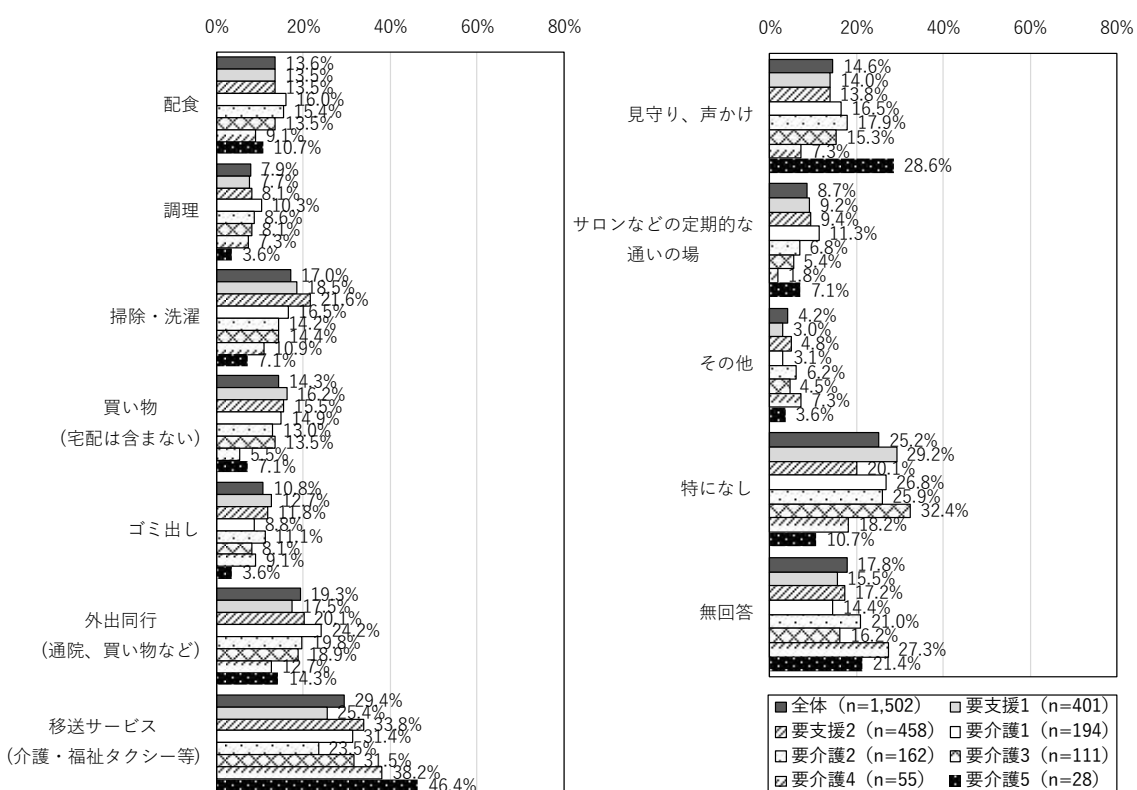
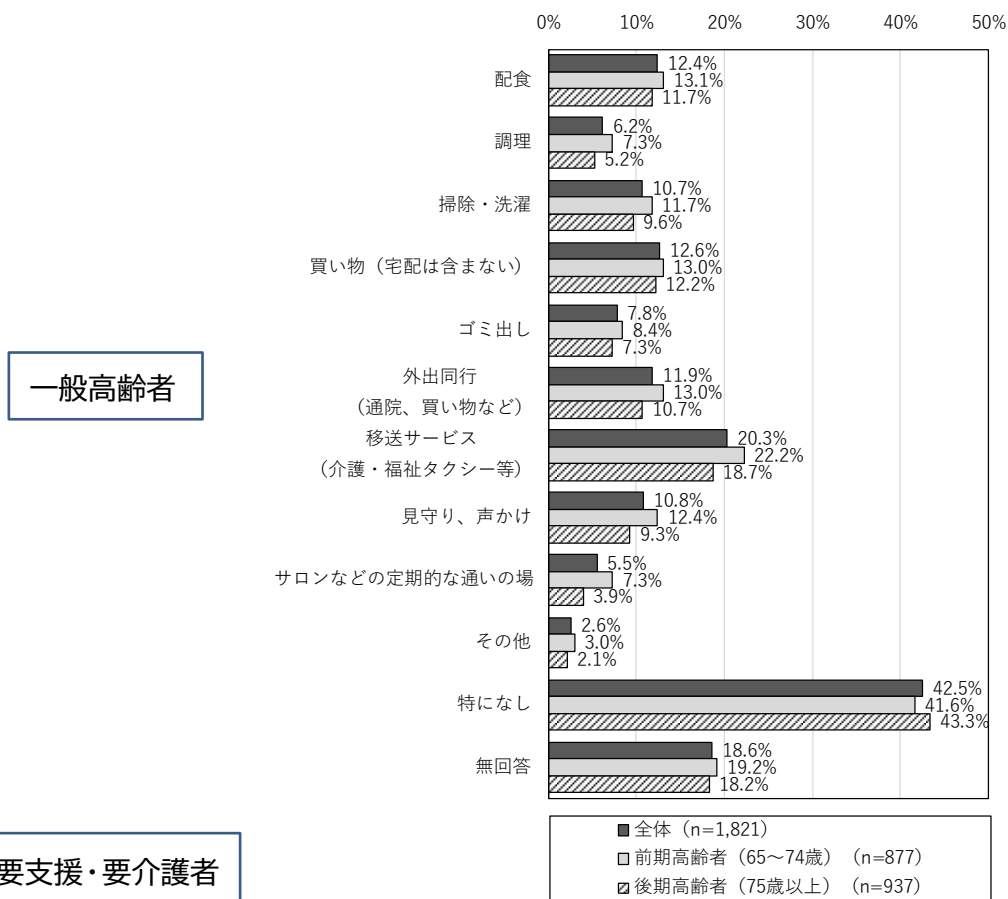
若年者



今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が一般高齢者では2割、要支援・要介護者では3割となっています。

また、一般高齢者では、「特になし」が約4割と最も多くなっています。

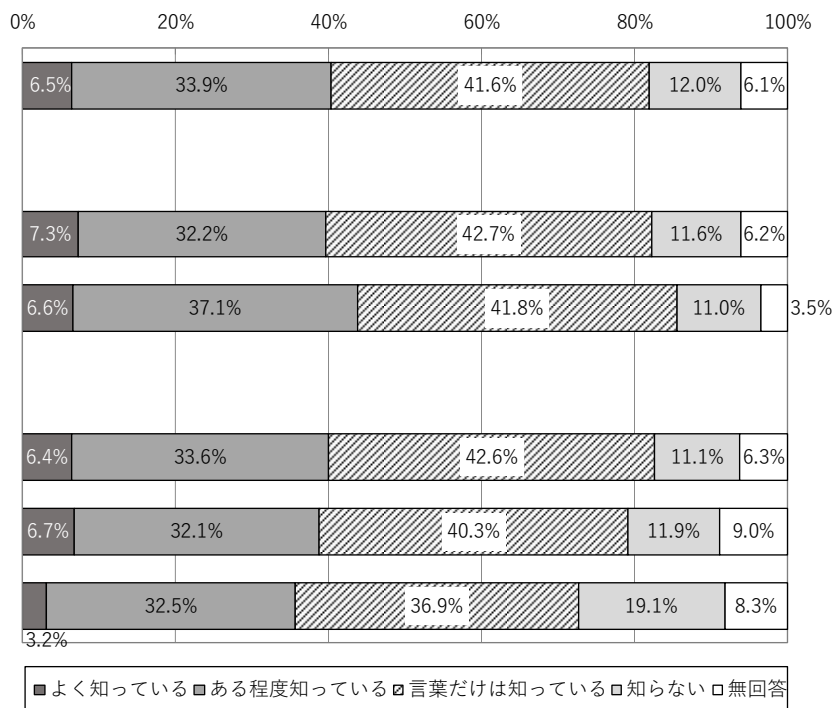
【在宅生活の継続に必要と感じる支援】



在宅医療の認知について、3調査ともに「言葉だけは知っている」が最も多くなっていますが、要支援・要介護者において「知らない」の割合が16%とやや高くなっています。

【在宅医療の認知】

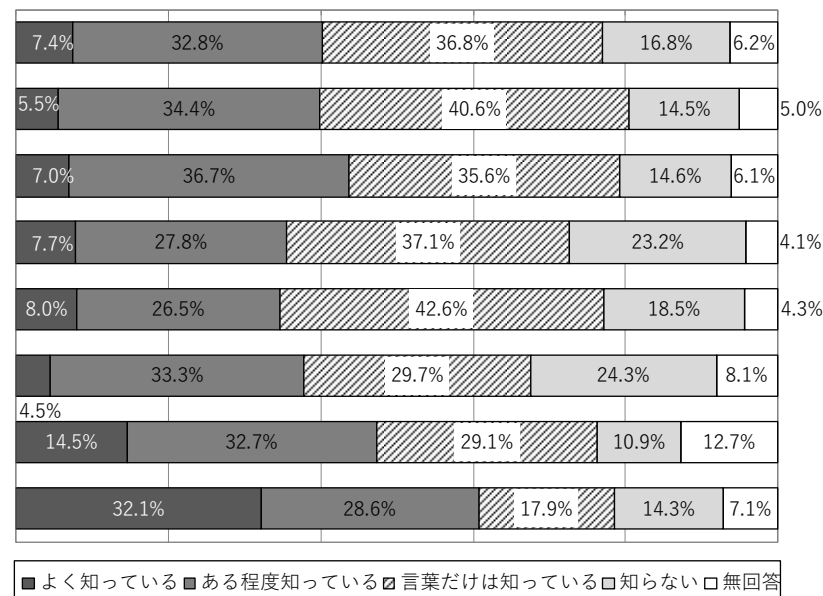
一般高齢者



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■よく知っている ■ある程度知っている □言葉だけは知っている □知らない □無回答

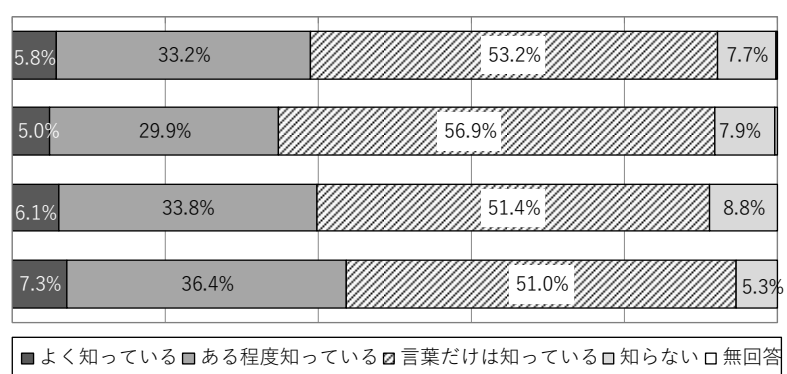
要支援・要介護者



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■よく知っている ■ある程度知っている □言葉だけは知っている □知らない □無回答

若年者

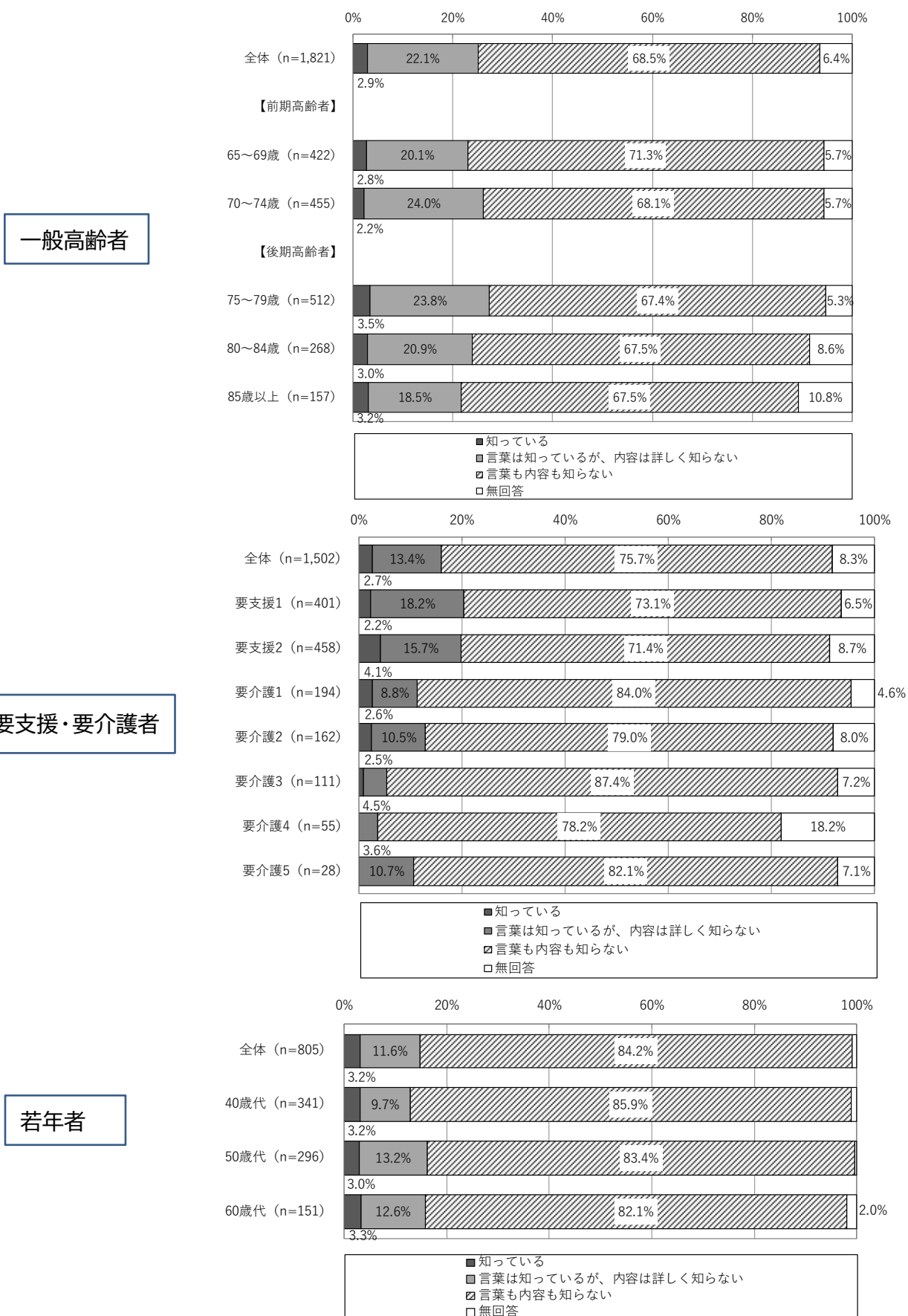


0% 20% 40% 60% 80% 100%

■よく知っている ■ある程度知っている □言葉だけは知っている □知らない □無回答

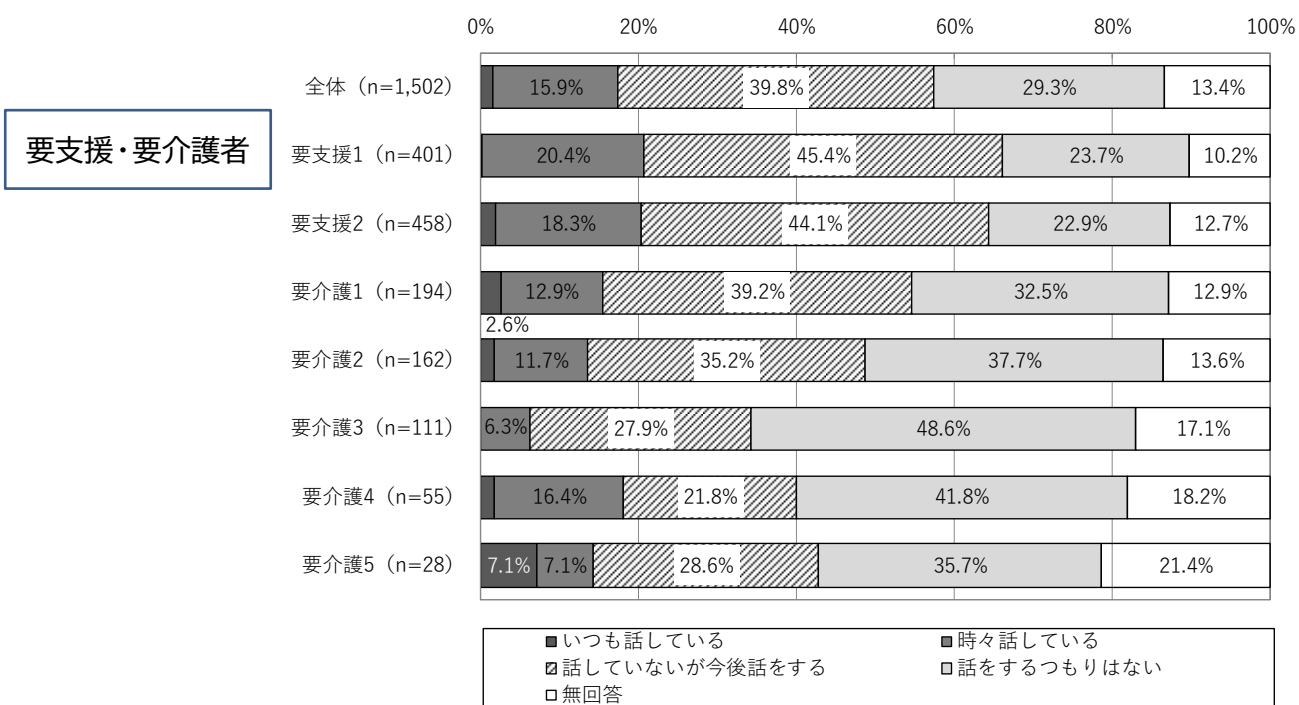
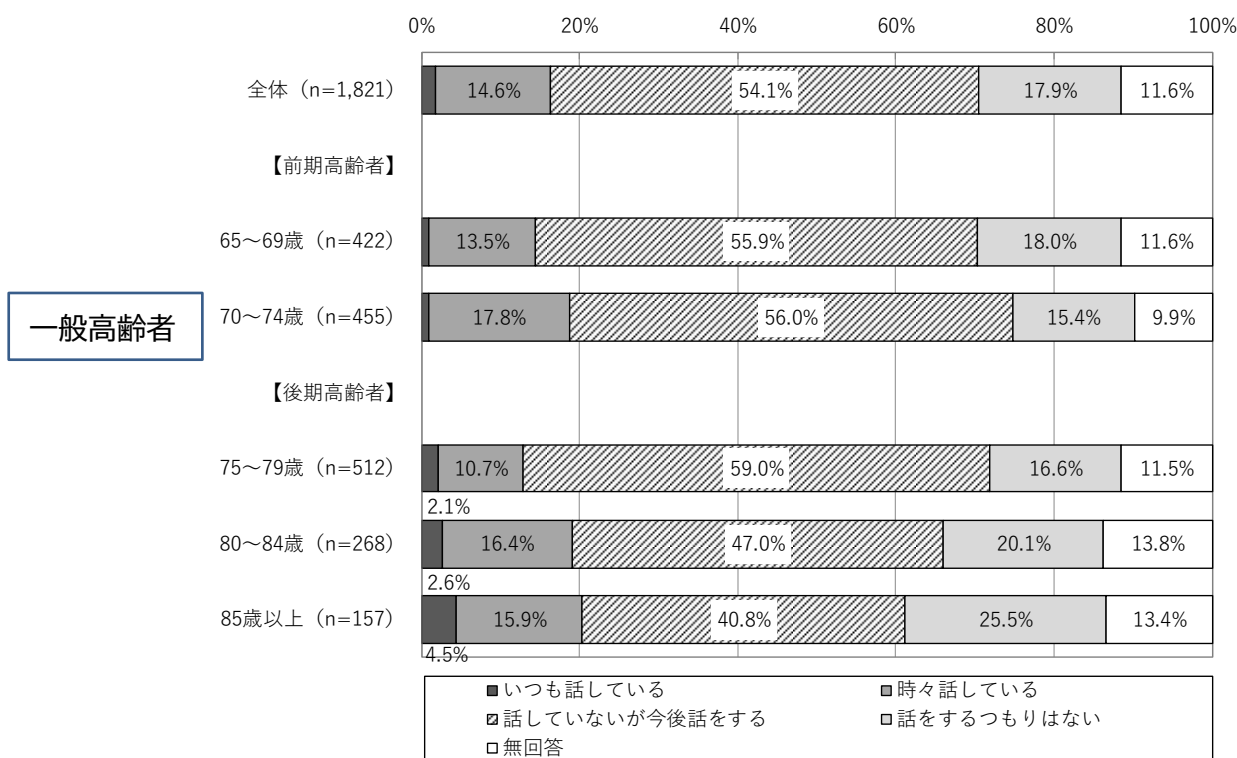
ACPの認知について、3調査全てにおいて「言葉も内容も知らない」が最も高くなっていますが、一般高齢者と若年者を比較すると、その割合において15ポイント以上の差があることがみてとれます。

【ACPの認知】

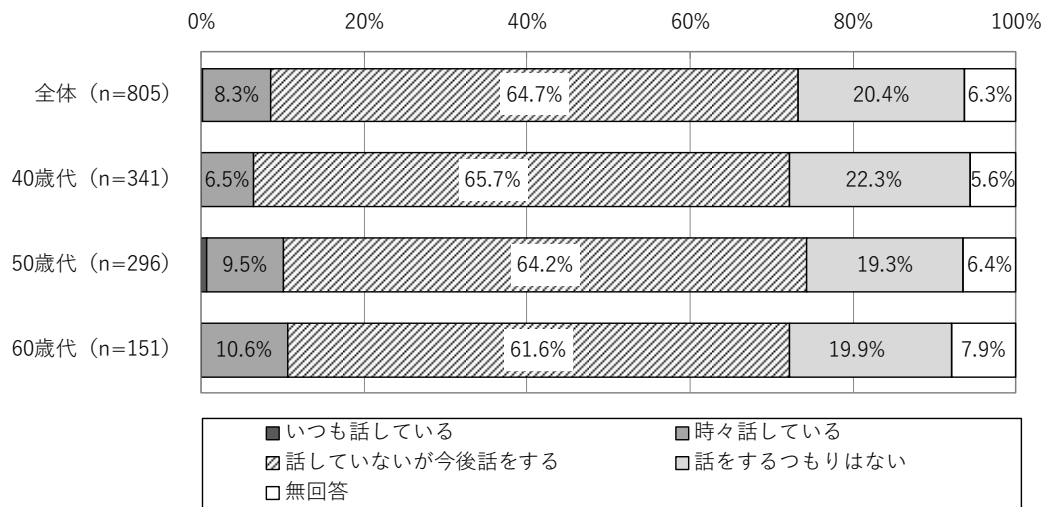


将来への意思について、3調査全てにおいて「話していないが今後話をする」が最も高くなっていますが、要支援・要介護者と若年者を比較すると、その割合において25ポイント程度の差があることがみてとれます。

【将来の意思決定について】



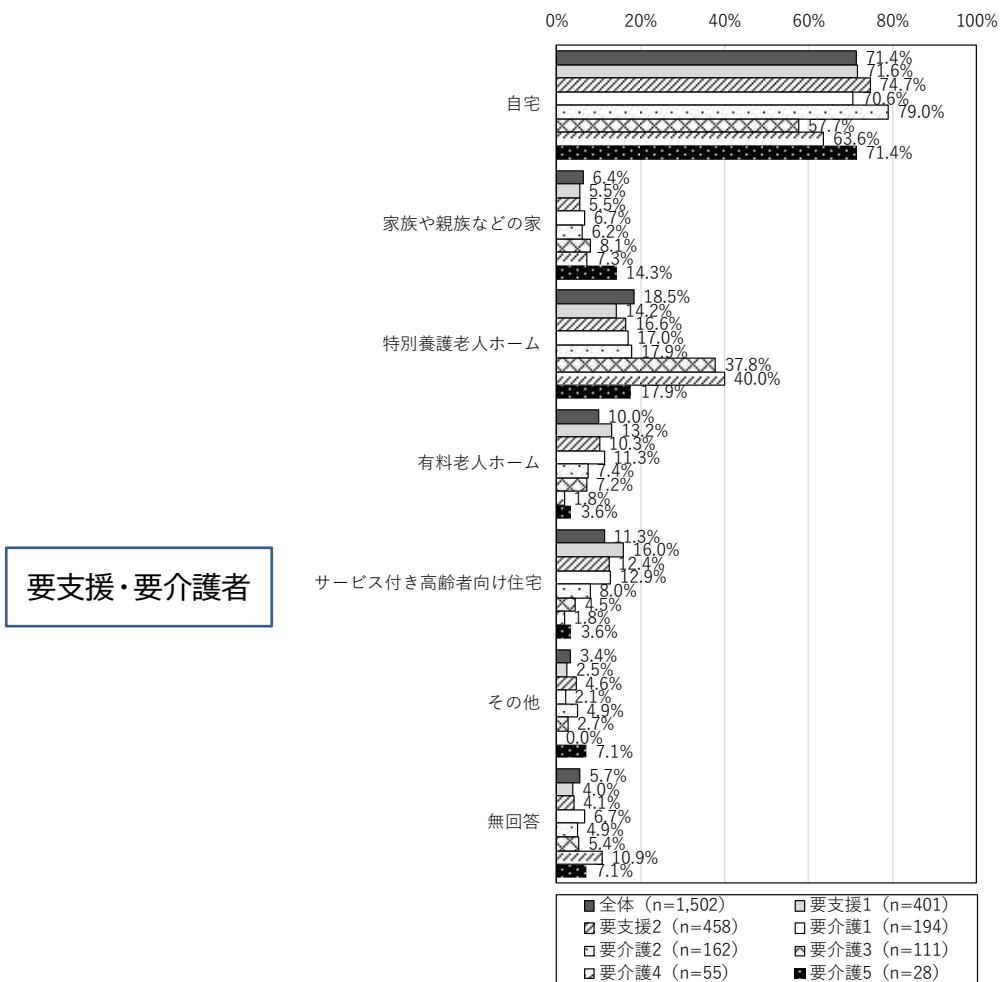
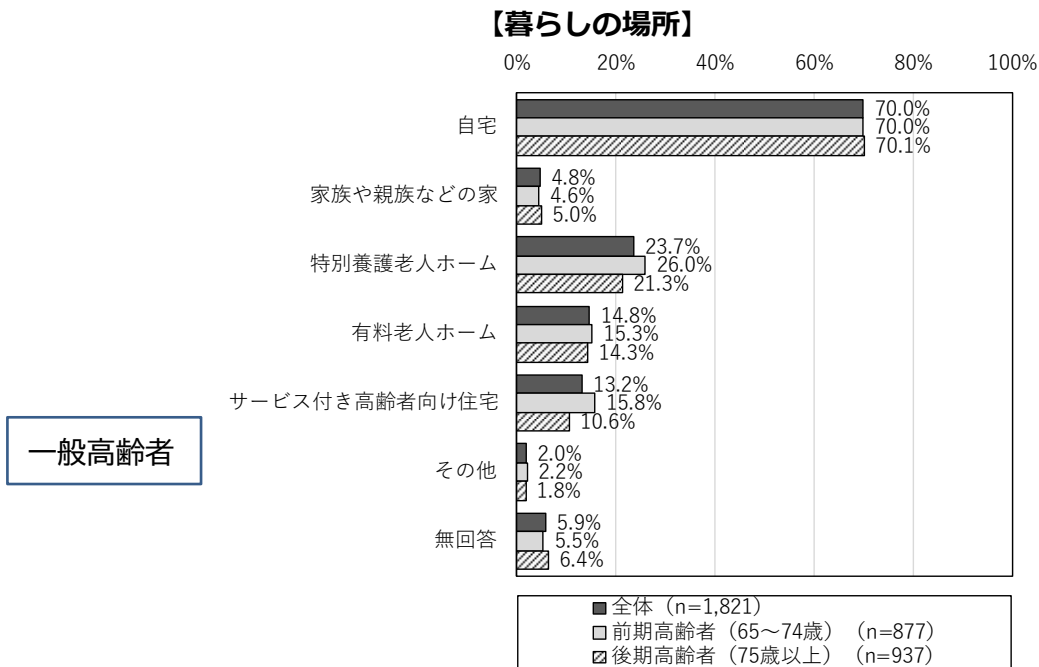
若年者



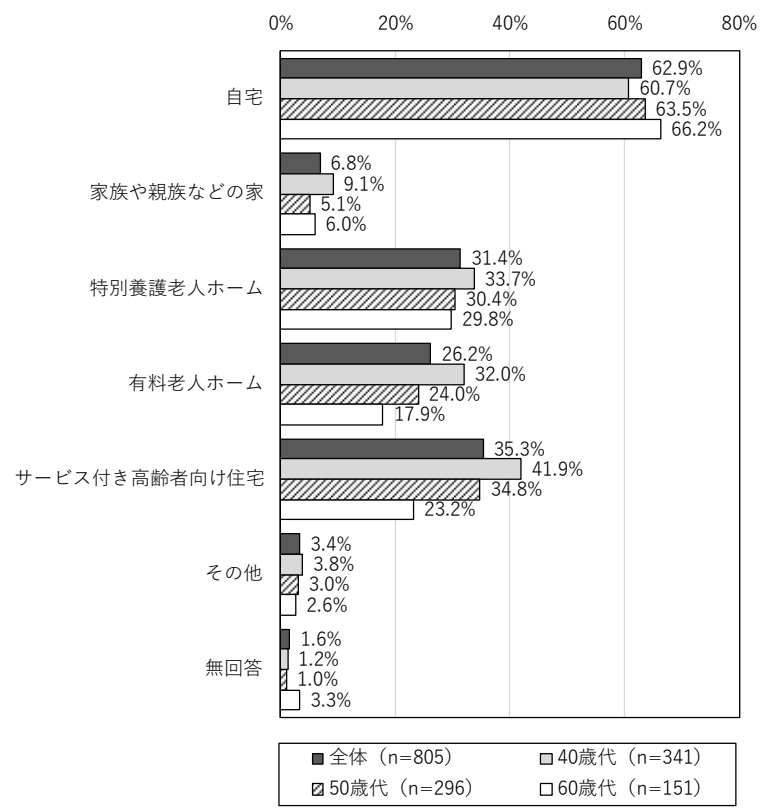
(8) 住まいについて

自身が今後、要介護（要支援）状態となった場合の暮らしの場所について、3調査全てにおいて「自宅」が最も多くなっており、次いで「特別養護老人ホーム」が一般高齢者、要支援・要介護者では約2割となっています。

若年者では、「自宅」に次いで「サービス付き高齢者向け住宅」が35%となっています。



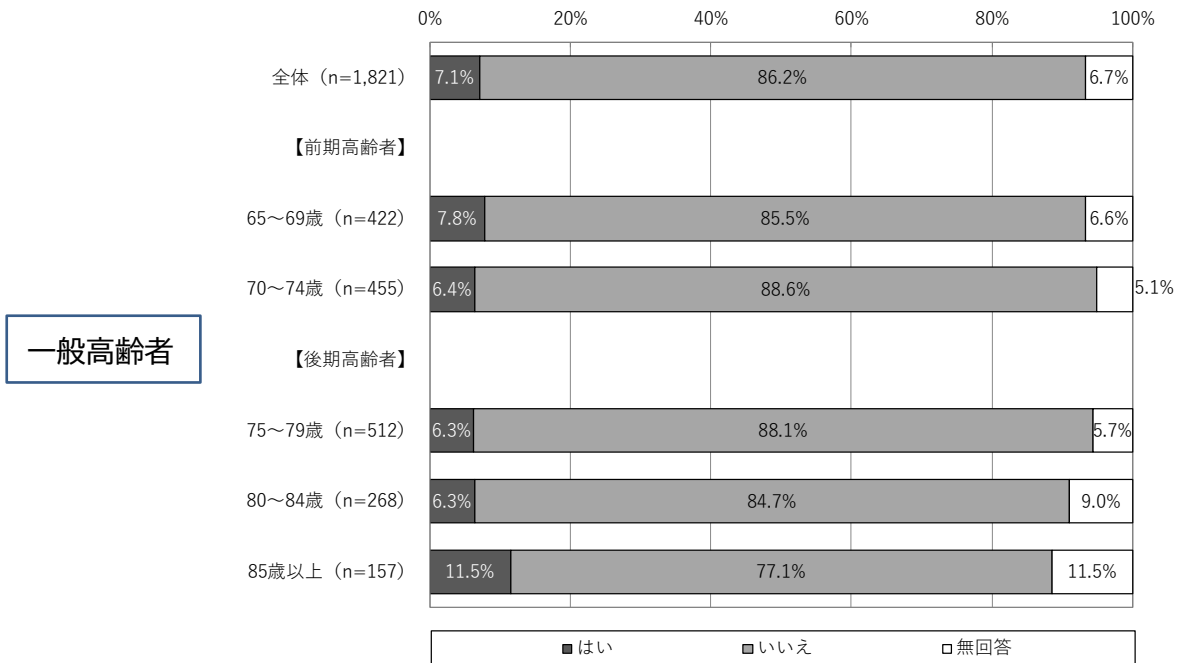
若年者



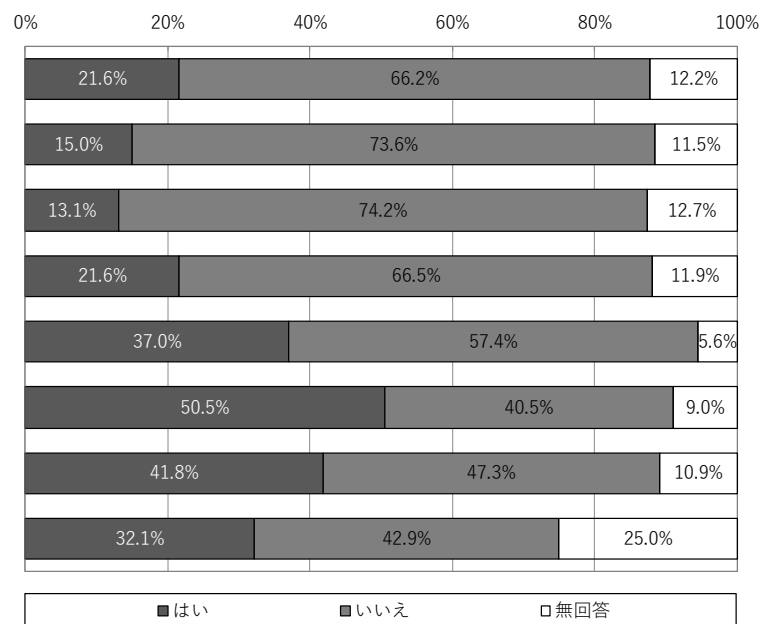
(9) 認知症にかかる相談窓口の把握について

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかでは、3調査全てにおいて「いいえ」が多くなっていますが、要支援・要介護者において、「はい」が約2割となっています。

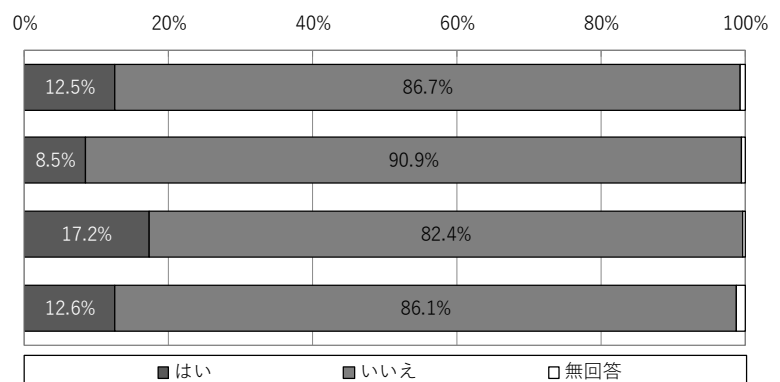
【認知症の症状】



要支援・要介護者

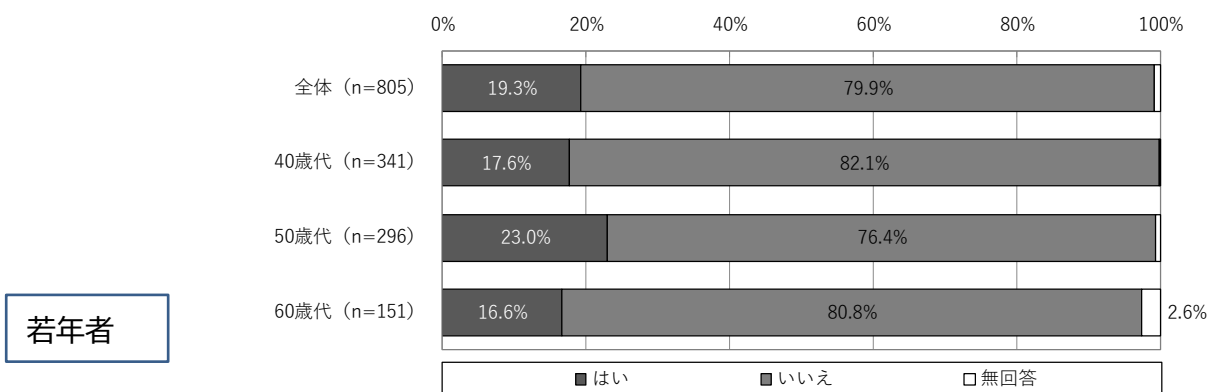
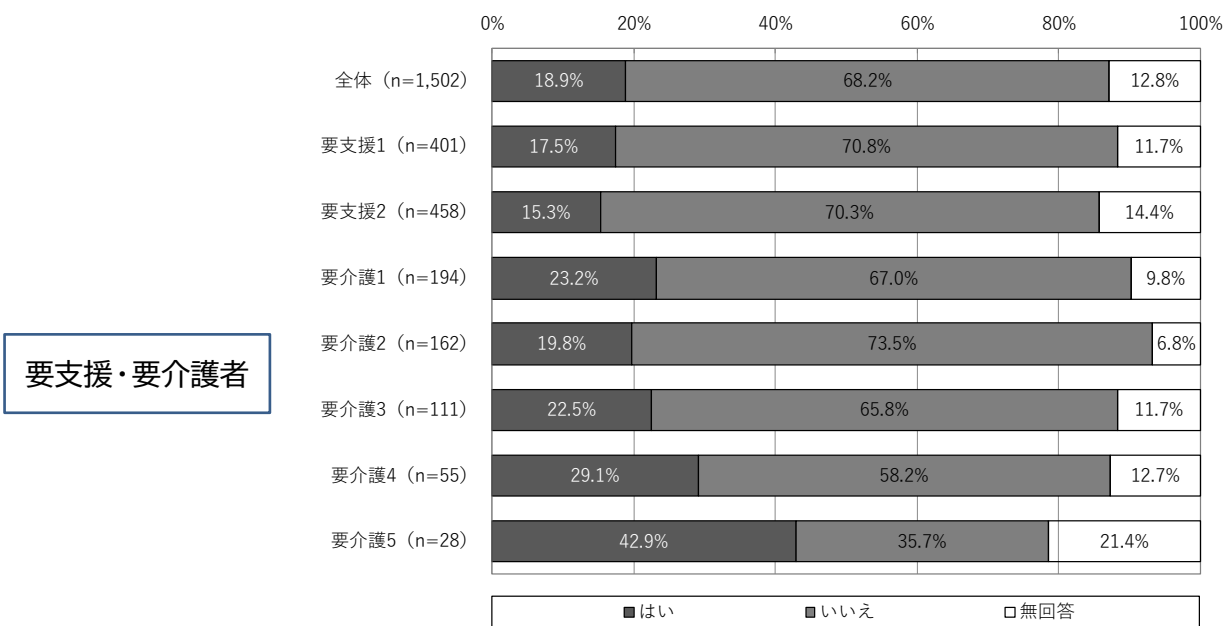
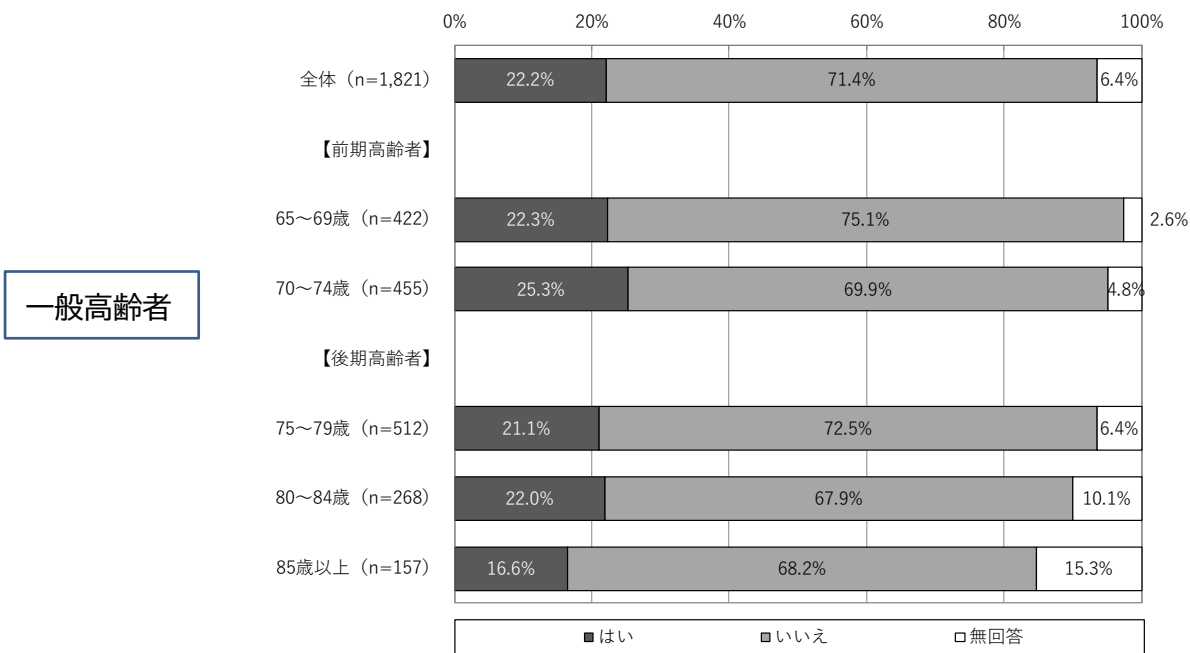


若年者



認知症に関する相談窓口の認知については、3調査ともに大きな差はありませんでしたが、要介護5において約4割の方が認知していることがみてとれます。

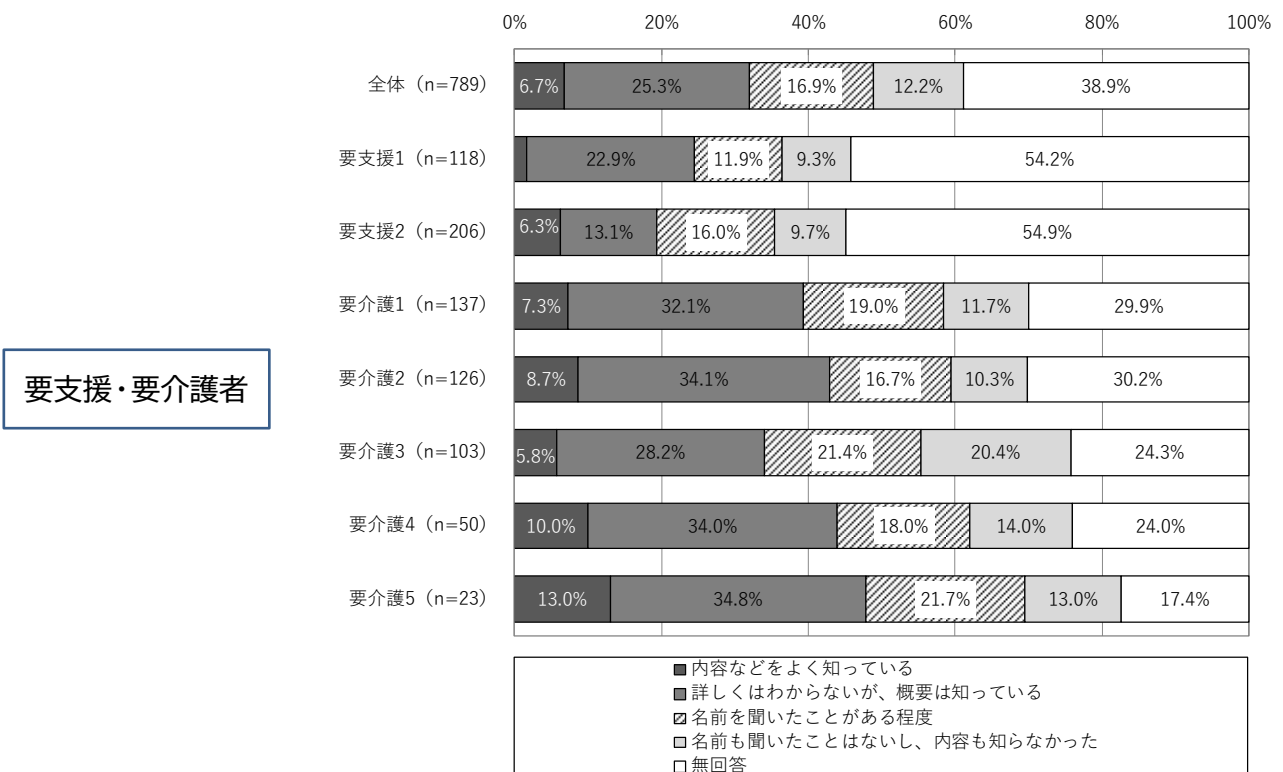
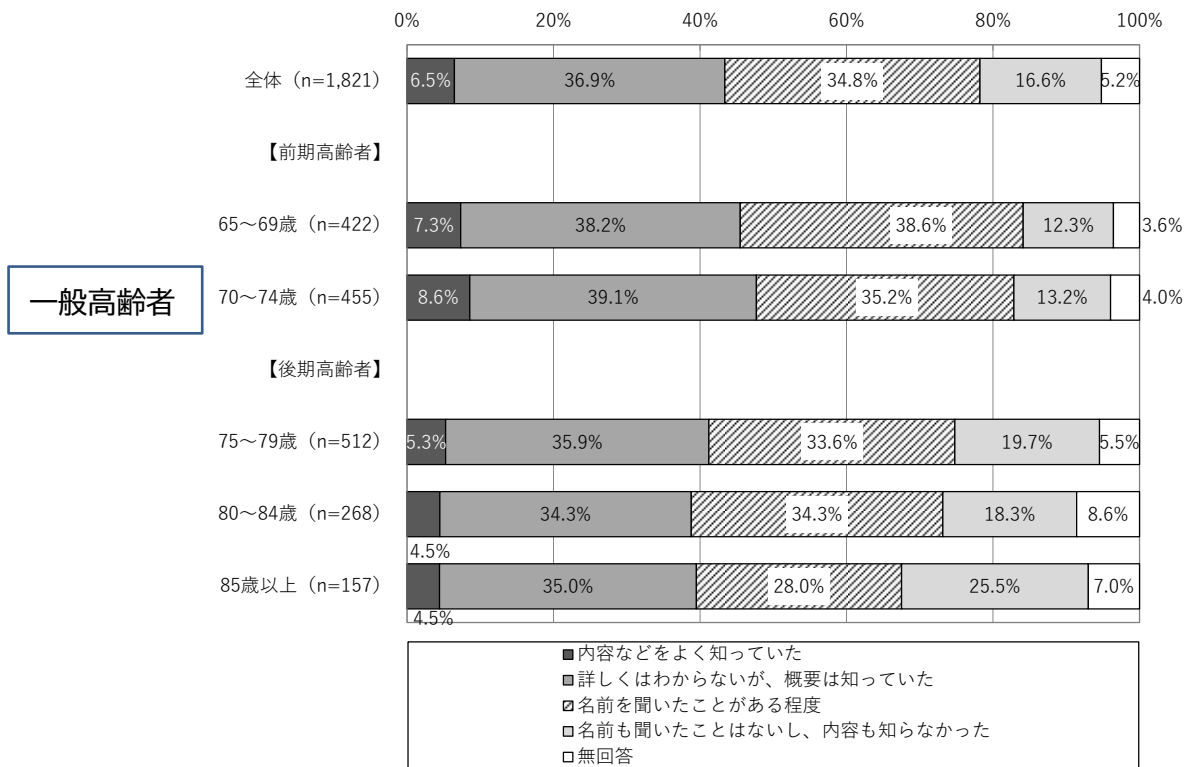
【認知症に関する相談窓口の認知】



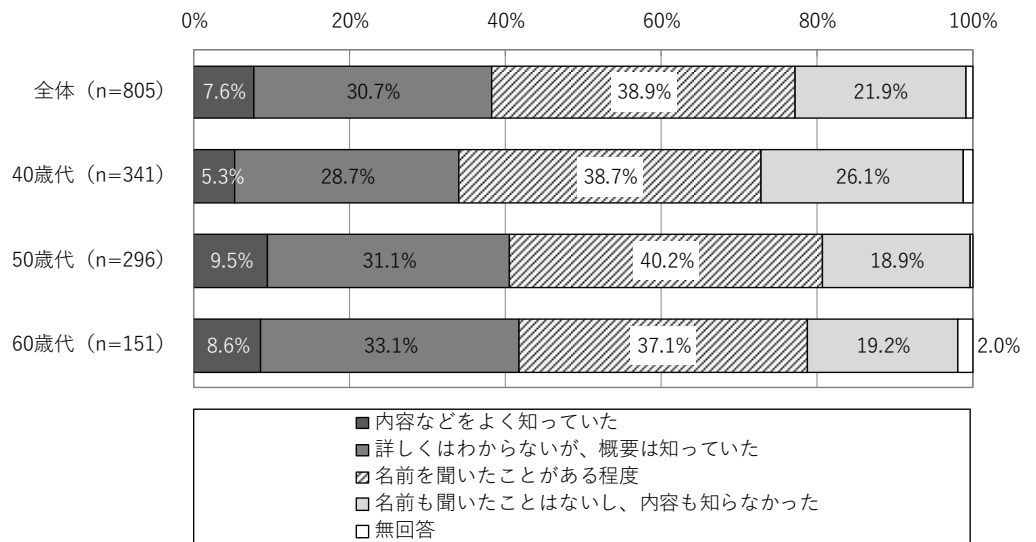
(10) 成年後見制度について

成年後見制度の認知について、3調査を比較すると若年者においてやや「名前も聞いたことはないし、内容も知らない」の割合が高くなっています。

【成年後見制度についての認知】



若年者



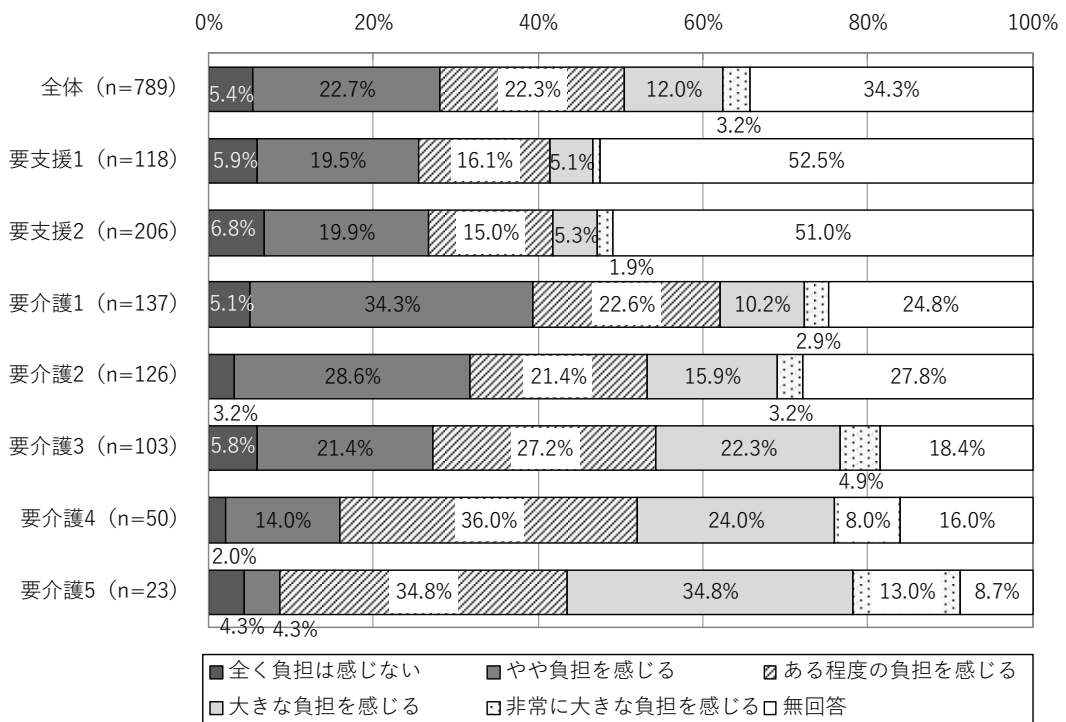
(11) 在宅の介護者について（要支援・要介護のみ）

介護の負担では、「やや負担を感じる」「ある程度の負担を感じる」「大きな負担を感じる」「非常に大きな負担を感じる」を合わせた『負担を感じる』が6割となっています。

また、要介護5では約半数の方が大きな負担を感じていることがみてとれます。

【介護についての負担】

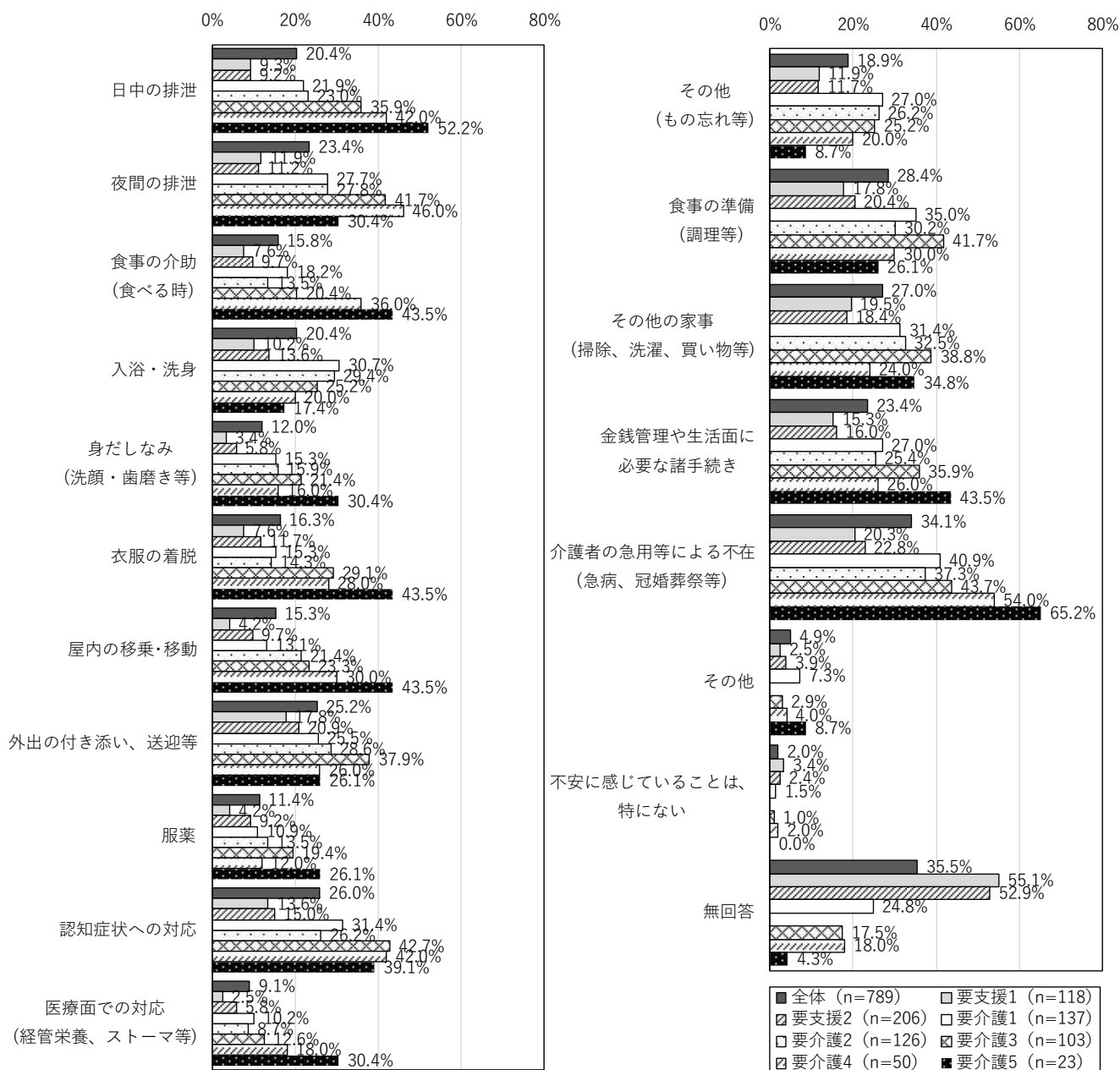
要支援・要介護者



現在の生活を継続していくにあたって、不安を感じる介護等では、「介護者の急用等による不在（急病、冠婚葬祭等）」が34.1%と最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」が28.4%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が27.0%となっています。

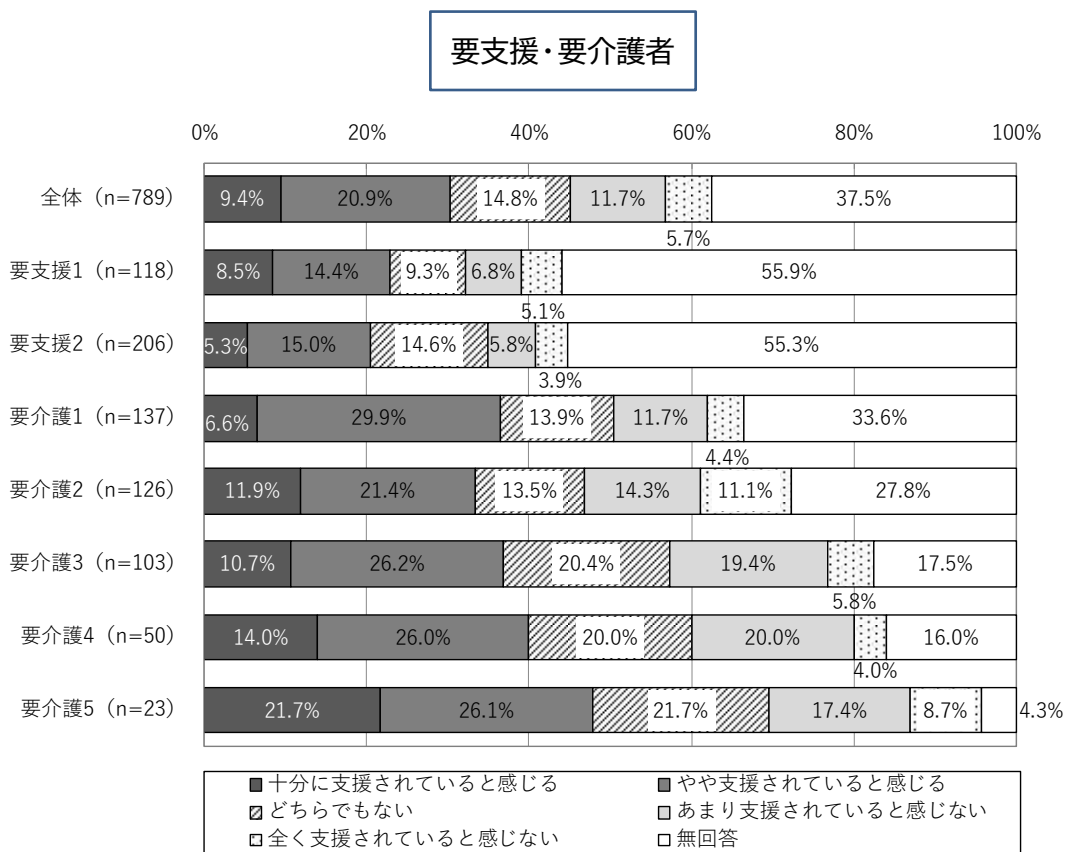
【不安を感じる介護】

要支援・要介護者



介護をしているあなた自身に対して、支援されていると感じるかでは、「十分に支援されていると感じる」「やや支援されていると感じる」を合わせた『支援されていると感じる』が3割と なっています。

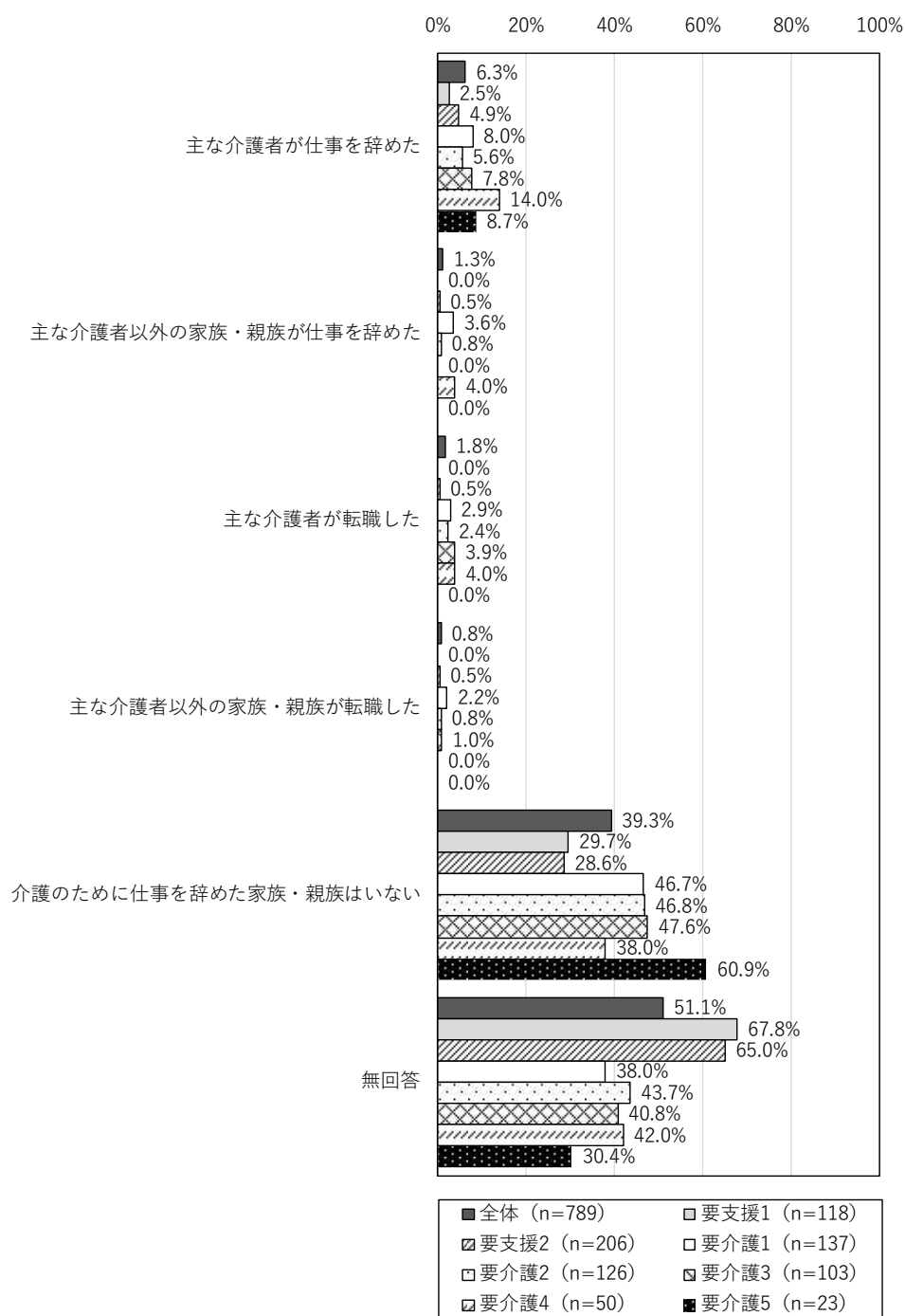
【介護についての支援】



家族や親族の中で、介護を必要とする方の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいるかでは、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が39.3%と最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.3%、「主な介護者が転職した」が1.8%となっています。

【介護離職について】

要支援・要介護者

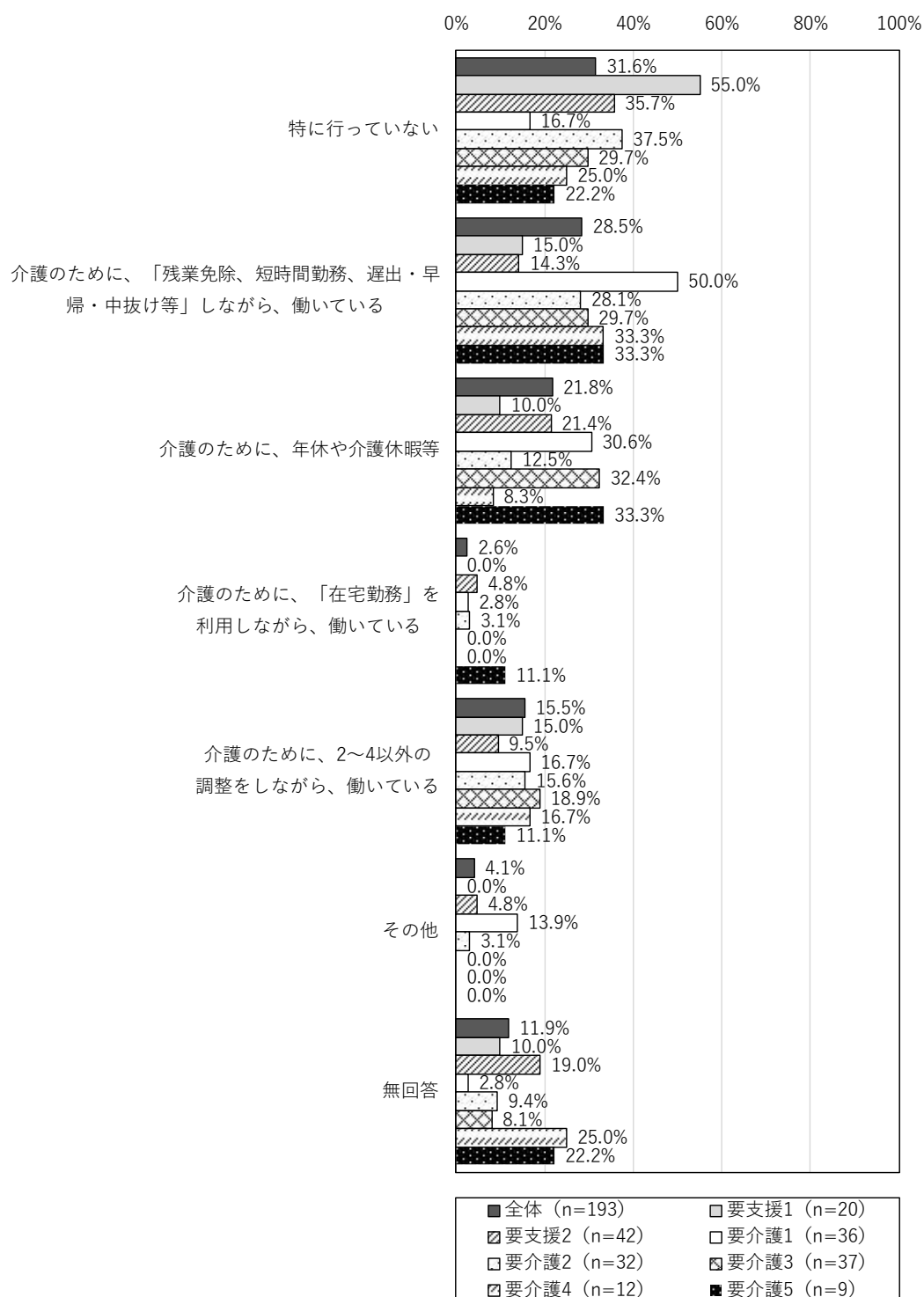


介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしているかでは「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が28.5%と最も多く、次いで、「年休や介護休暇等」が21.8%となっています。

また、「特に行っていない」の項目をみると、要介護2以上になるとその割合は減少してることがみとれ、働き方において何かしらの調整をしていることがうかがえます。

【介護にあたっての働き方の調整】

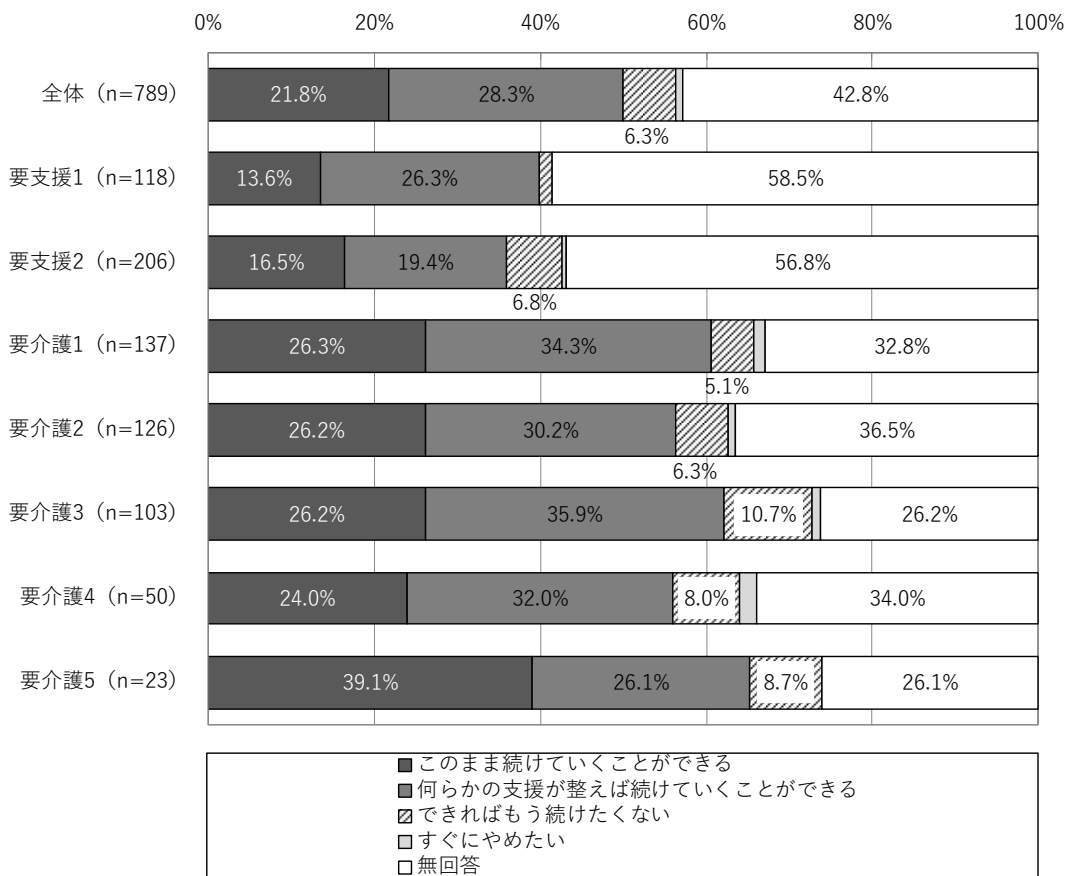
要支援・要介護者



全体を通して、今後介護を続けることについての考えでは、「このまま続けていくことができる」「何らかの支援が整えば続けていくことができる」を合わせた『続けていくことができる』が5割となっています。

【介護の継続について】

要支援・要介護者



(12) 市への要望や意見

一般高齢者

- 今後自分そして家族のためにも市の介護や福祉の話を聞きたいと思う。近い将来に備えていきたい。
- 介護予防のための通い場をもっと充実してほしい。
- 介護認定を受けたいが、どうしたらよいか？認定を受けたらどのようなサービスが受けられるのかの案内を送ってほしい。
- 現在は健康に問題はないが、将来のために介護関連の情報が欲しいと思っています。
- 自動車に乗れなくなると移動手段がなくなるので買い物、通院、外出が不便になる。「福祉無料バス」を希望。
- 現時点では切実感が無いので要望、意見はありませんが、今後しっかりと検討する予定です。今回のアンケートは自覚への良い刺激となりました。
- 高齢者福祉サービスはなくてはならないものですがその人の生活状態、精神生活などでかなり年齢的に差があると思います。モチベーション、アイデンティティーによってかなり異なります。全ての人を一括りにしてみないようして下さい。
- 軽い運動、筋力増強など老化の進行を抑える様な施設や運動公園（小規模）が近くにあれば気の向いた時に利用したい。
- 健康づくり教室や施設の充実。文化施設や教室の増加。
- 階段の手すり他、高齢者に必要な設備と設置する際の助成金の対象者の幅をもっと広げてほしい。
- 筋力が低下しないように、無料で筋力トレーニングができる施設を増やしその情報を分かりやすく流して欲しい。
- 今は何もありません。現在良い生活をしています。
- 自家用車の代替手段（使いやすい）が急務と思います。
- 高齢者の健康づくり（シルバー体操等）に参加しているが非常に良い事と思うので、より多くの人達が参加できる環境づくり（情報の提供、予算の充実）に努めてほしい。

主に上記の意見がありました。

要支援・要介護者

- 移動手段の充実を図ってほしい。
- 高齢になると理解しづらくなるので、介護保険制度や健康づくりの分かりやすい冊子を出してほしい。在宅で介護している人に分かりやすい冊子もほしいです。
- 個々のサービスのみでなく、総合的な相談出来る場がほしい。
- 日頃一人暮らしで（娘も東京にいますけど）近所に知り合いがなく、介護の方々が来てくれる事は本当に嬉しいです。感謝しています。そしてそのおかげで私は生きられています。本当に有難う。
- 介護を受ける者にとりメリット、権利（利用する）がある物は積極的に教えてほしい。申請待ちではなくもっと利用するのにわかりやすく、わかりにくく利用しづらい。
- 地域の高齢者に対してどのような支援サービスが受けられるかの説明を民生委員の方にしてほしい。
- 老人ホームに入所希望ですがなかなか条件が合わず入れません。ぜひご紹介いただければ有難く存じます。手首を痛めており日々の生活に困っております。何卒ご配慮のほどお願い申し上げます。
- 徒歩で行ける範囲に高齢者のカフェのような集まれる場所があったら出かけて行きたいと思っています。
- 昨秋は台風が度々あり、高齢の独り暮らしは不安でした。台風通過するまで他の方と一緒に過ごせる場所に居たいと思いました。家族とも相談し考えることにしています。なお、市からの緊急避難警報が携帯に入りましたが、メールしない高齢の方には入らず、知らせてあげました。市からの情報について希望します。頼りにしています。地方に住む知人の様子を聞くと、つくば市は恵まれていると思います。
- 情報を欲しいと思いますが、高齢者にも分かりやすい、見やすい「内容、デザイン」にしてほしい。応募する方法もインターネットよりも「ハガキや電話」にしてほしい。
- ツクバスの充実（細部に行き届いた）。最寄りに気軽に立ち寄れる公的施設の設置。

主に上記の意見がありました。

若年者

- 他の自治体の成功事例を調査し、良い所をとり入れてはいかがでしょうか。また民間の大手といっしょに開発をすすめるとよいのではないのでしょうか。
- あまり現在は関心を払っていないので、情報や福祉がどの程度カバーしているのかわかりませんが、収入や年金の額が低い人でも、身寄りがない人でも、安心して老後を生きていけることを望みます。
- デイサービスを老人特有の行きにくい施設ではなく、知的な活動や体力づくり健康管理ができる場にしてほしい。イメージで行きたがらない老人が多いのを何とかしたい。(ジムのようなカルチャーセンターのような)若い人も同じ空間で活動している施設に。
- マンションが自治会に入っておらず民生委員の管轄外であり住人同士の付き合いもあいさつ程度で希薄であるため将来もっと歳をとったときを考えると不安がある。
- 家の近くで健康教室などが開催されれば参加したい。つくたくは利用しづらくつくバスは家の近くに停留所がない(遠い)ためもう少し利用しやすい形が整うことを願いたい。
- 一人暮らしをしていますが、生活が経済的に苦しい、市営住宅に住みたいが、なかなか条件にあわず入れず、歳をとってもずっ〜と働いていかないと生活が成り立たない。
- 一定の年齢の人には認知症検査を受診する補助なり受診券なり発行してほしい。軽度のうちに発見したほうがいい。独身や単身の人には注意してくれる人がいないし家族でもお勧めしにくい検査ゆえ市から券が来たからと足が向きやすくなる。
- 介護をしていると八方塞感があるので話を聞いてもらえるところがあれば助かります。

主に上記の意見がありました。

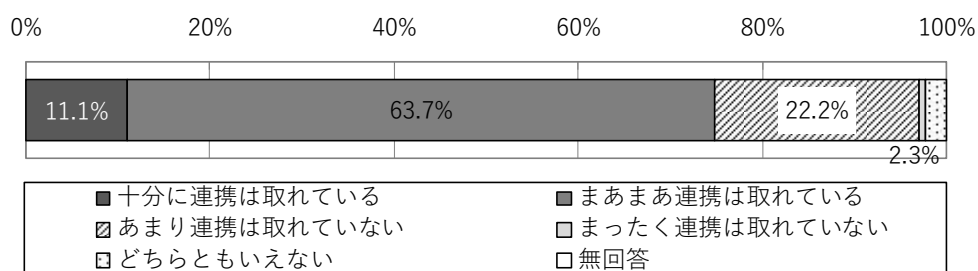
3. ケアマネ調査結果抜粋

(1) 関係機関との連携について

医療との連携は取れているかでは、「十分に連携は取れている」「まあまあ連携は取れている」を合わせた『連携は取れている』は74.8%となっています。

また、「あまり連携は取れていない」「まったく取れていない」を合わせた『連携は取れていない』は22.8%となっています。

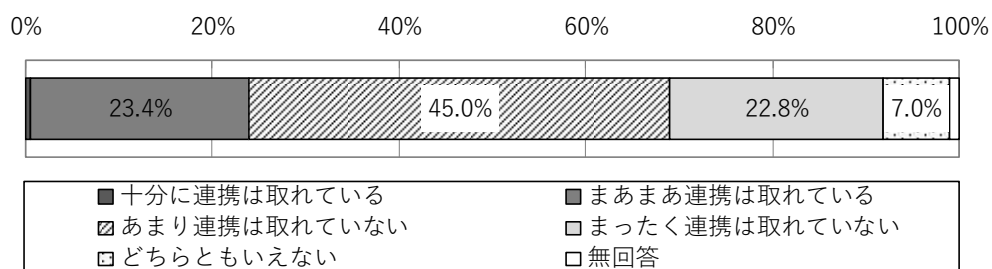
【医療との連携について】



区会、民生委員との連携は取れているかでは、「あまり連携は取れていない」「まったく取れていない」を合わせた『連携は取れていない』は67.8%となっています。

また、「十分に連携は取れている」「まあまあ連携は取れている」を合わせた『連携は取れている』は24.0%となっています。

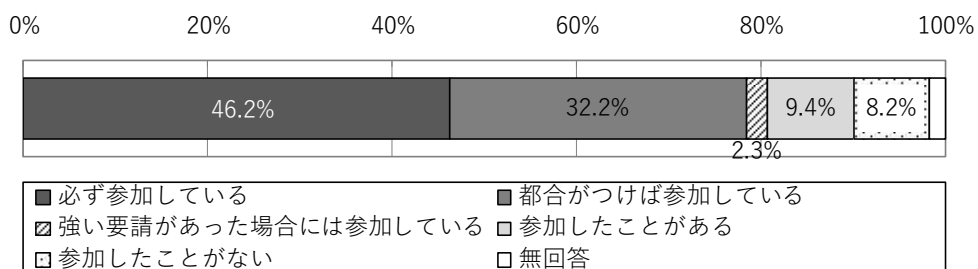
【区会、民生委員との連携について】



(2) 入退院時について

退院前カンファレンスへ参加しているかでは、「必ず参加している」が46.2%と最も多く、次いで「都合がつけば参加している」が32.2%、「参加したことがある」が9.4%となっています。

【退院前カンファレンスへの参加】

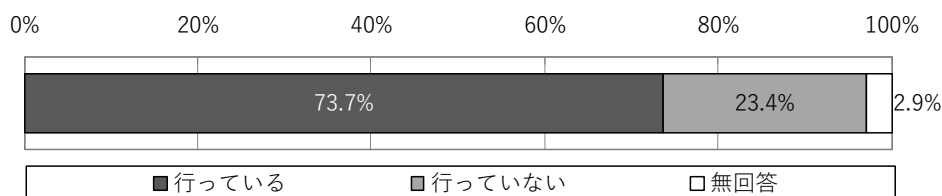


n=171

(3) 看取りについて

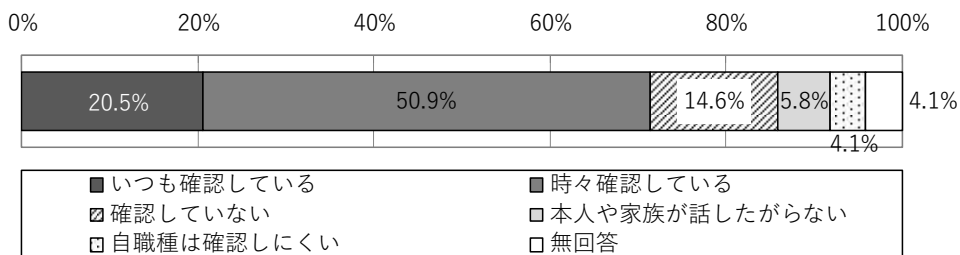
看取りを行っている・関与しているかでは、「行っている」が73.7%、「行っていない」が23.4%となっています。

【看取りについて】



n=171

日常の支援において、本人の終末期における医療や介護、生活や家族への希望等、ACP（アドバンスケアプランニング）について、本人の意向を確認しているかでは、「いつも確認している」「時々確認している」を合わせた『確認している』は71.4%となっています。

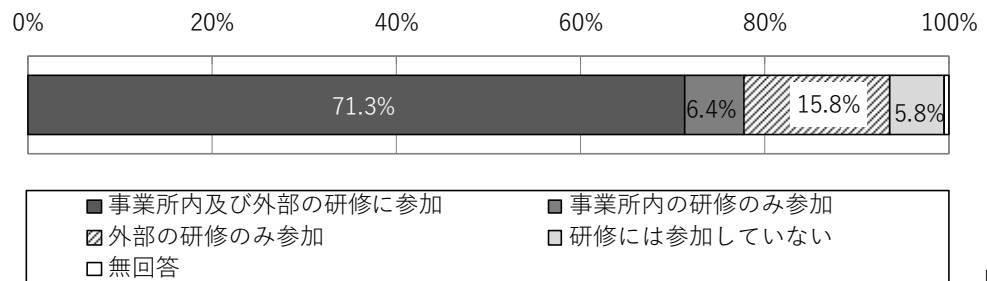


n=171

(4) サービスの質の向上について

サービスの質の向上に向けた研修に参加しているかでは、「事業所内及び外部の研修に参加」が71.3%と最も多く、次いで「外部の研修のみ参加」が15.8%、「事業所内の研修のみ参加」が6.4%となっています。

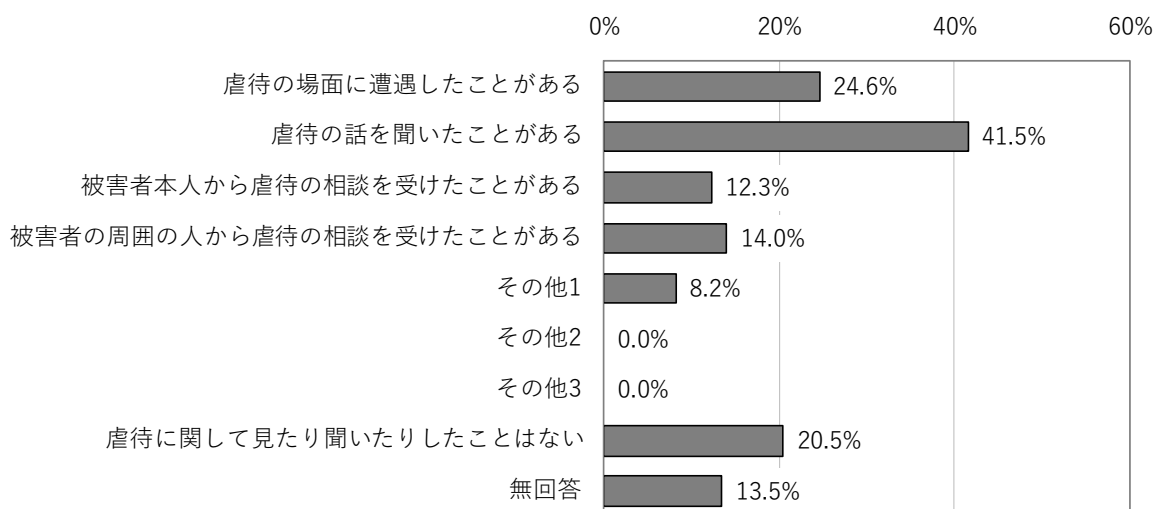
【サービスの質の向上について】



(5) 虐待について

これまで、高齢者虐待が疑われるような場面に遭遇したり、話や相談を受けたことなどがあるかでは、「虐待の話を聞いたことがある」が41.5%と最も多く、次いで「虐待の場面に遭遇したことがある」が24.6%、「被害者の周囲の人から虐待の相談を受けたことがある」が14.0%となっています。

【虐待について】



(6) 市への意見

- つくたくは高齢者にとって利用し難い点が多く「買い物に行けない、病院受診が困難」等の声が多く聞かれる。つくたくの利用がもう少し利用者サイドに向けた方向性を期待する。買物難民に対しては、大手スーパーと市が提携し利用者宅からスーパーへの送り迎えが可能になれば生活の質も改善していくと思う。行政が介入し、介護保険横出しサービスを導入する事で介護保険利用の押下の歯止めにもつながると思われます。何よりも本人の意欲向上、社会性の維持につながる効果は大きい。
- 介護人材の不足は深刻であり、少ない人材が日々疲弊しながら高齢者ケアに臨んでいます。介護保険の今後の健全な運営を考える上で人材の確保は不可欠な要素であり、事業所単体で解決できる問題ではありません。保険者として、つくば市には、是非この問題の解決に向けた努力を続けて頂きたいと考えます。
- 困難なケース等について、積極的に情報を共有して一緒に動いていただけると助かる。ケアマネにかかる負担が大きい。
- 細かい法令遵守があるため、その業務に時間がとられがち。負担も多く感じる。ケアマネの一連の仕事（サービス担当者会議、アセスメントの内容など）、もうちょっと簡素化できないものではないでしょうか。違反とされた時の減算なども厳しすぎるように感じています。
- 認定調査時の基準が人によってバラバラであり、特に委託されてきた事業所のケアマネは理解してくれるが市の調査員は厳しく判定する傾向があり、介護度にバラつきが出ている。
- 負担限度額制度の使用できる範囲が広がれば、収入が低く介護度も低い人が救われます。
- 他市町村の介護窓口と比較してとてもやりやすい。

主に上記の意見がありました。